

岡山市埋蔵文化財センター年報 2

2001（平成13）年度

2003年3月

岡山市教育委員会

はじめに

岡山市埋蔵文化財センターは、当市の埋蔵文化財に関する拠点施設となるべく平成12年度に開設されてから今年で3年が経過しました。私どももセンター開設を契機に気持ちを新たにし、埋蔵文化財の保護・保存に努めているところであります。この間、多くの方々の多大なご協力をいただきましたことを感謝いたします。

当センターでは、発掘調査や出土物の整理・収藏をはじめとして、さまざまな場においてそれら成果を公開・展示したり、ホームページを設置したりするなど、埋蔵文化財に対する愛護意識の普及を図るよう取り組んでいます。また、史跡岡山城跡や史跡賞田廃寺などでは、歴史的環境整備やそれに向けての準備が着実に前進しております。今後も埋蔵文化財の保護・保存のみならず、その活用にも重点を置き、みなさまにわかりやすく親しみやすい文化財になるようよりいっそうの努力を続けてまいります。

本書は、平成13年度に岡山市教育委員会文化財課・岡山市埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財保護行政の概要報告であります。やむを得ず記録保存の措置をとることになった遺跡の調査成果や資料紹介などの貴重な報告が掲載されておりますので、本書が学術研究の一助となるだけではなく、広く埋蔵文化財保護のために活用していただけるなら幸いであります。

平成15年3月31日

岡山市教育委員会生涯学習部
文化財課課長 出 宮 徳 尚

例　　言

- 1 本書は、岡山市教育委員会文化財課・岡山市埋蔵文化財センターが2001（平成13）年度に実施した埋蔵文化財保護行政の概要報告である。
- 2 「II 発掘調査等の概要」の執筆については各調査担当者が分担し、「IV 資料紹介と研究ノート」については、執筆者名を明記している。なお、本書の編集は、柴田英樹が行った。
- 3 本書に関する遺物、実測図、写真等の記録は、岡山市埋蔵文化財センターで保管している。
- 4 「II 発掘調査等の概要」は整理途中のものもあり、正式な報告書刊行の時点で訂正される場合がありますので、ご了承ください。
- 5 遺物の整理や実測、図の作成にあたっては、多くの方々のご協力を得ております。氏名は省略させていただきますが、関係されました方々には感謝いたします。

目　　次

I	埋蔵文化財センターの組織と事業の概要.....	1
II	発掘調査等の概要.....	13
III	埋蔵文化財保護に関わる協議と調整.....	33
IV	資料紹介と研究ノート.....	41

I 埋蔵文化財センターの組織と事業の概要

1 センターの概要

設置の趣旨

岡山市内は、さまざまな種類の遺跡が数多く所在しており、全国的に見ても貴重な遺跡が豊富な地域である。また一方で、各種開発事業も多く、それらとの調整を図りながら埋蔵文化財の保護と保存を行ってきた。その結果、膨大な量の出土物や記録の収藏とともにそれらの活用を行うことが重要な責務となった。

岡山市埋蔵文化財センターは、当市の埋蔵文化財に関する拠点施設として、発掘調査や出土物の整理・保存・収蔵、それらの展示・公開・情報発信などを行い、埋蔵文化財の保護や保存、また埋蔵文化財に対する愛護意識の普及等を図ることを目的として設置された。

設立年月日

平成12年4月1日

所在地

〒703-8284 岡山市網浜834-1



施設概要

敷地面積 2442.85m²

建築面積 845.09m²

延床面積 1895.79m²

（ 鉄筋コンクリート 3 階建
1 階 747.15m²
2 階 736.34m²
3 階 412.30m² ）

駐車場 10台

階	公開スペース	展示室 収蔵展示室 図書コーナー	計 207m ²	一 階	事務スペース	事務室 会議室	計 93m ²
						研究室・図面整理室 書庫 写場	
階	作業スペース	遺物整理室 水洗室 鉄器処理室 木器処理室 仮収蔵室	105m ² 24m ² 26m ² 21m ² 18m ²	二 階	研究スペース	特別収蔵庫 収蔵庫（2・3階）	計 198m ²
		計 194m ²	29m ² 816m ²			29m ² 816m ²	

2 センターの組織

岡山市教育委員会 —— 生涯学習部 —— 文化財課 —— 岡山市埋蔵文化財センター

文化財課

課長 出宮徳尚
調整主幹 三宅一正
文化財専門監 根木修
主査 神谷正義
主任 福永みどり

岡山市埋蔵文化財センター

所長（文化財専門監事務取扱）根木修
主任 乗岡実
主任 扇崎由
主任 柴田英樹（岡山県から派遣）
文化財保護主事 草原孝典
文化財保護主事 高橋伸二
文化財保護主事 河田健司（岡山県へ派遣）
文化財保護主事 安川満
嘱託 木村真紀

3 事業の概要

平成13年度月別入館者数

本年度は開所2年目となるが、入館者数は初年度に比べてかなり減少している。月平均では47人となるが、30人未満の月も多いという状況である。今後、当センターについて、よりいっそうの周知を図る必要がある。



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (前年比)
41	40	24	109	48	104	67	43	17	2	41	28	564 (-348)

資料の貸出

(4件)

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
南方(済生会)遺跡	打製石剣	7	13.5.15～13.6.15	高田浩司	学術研究
	打製石包丁	5			
経塚墳丘墓	特殊器台片	4			
吉野口遺跡	器台片	1			
長坂1号墳	器台	1			
長坂1号墳	壺	2			
長坂1号墳	特殊壺	1			
津寺(加茂小)遺跡	特殊器台片	1			
造山2号墳	円筒埴輪	1	14.3.12～15.3.31	岡山県立吉備路郷土館	常設展示
北方長田遺跡	器台	1	14.4.1～15.3.31	岡山市水道局水質試験所	展示
	壺	1			

掲載許可等

(21件)

許可日	遺跡名	資料名	点数	依頼主	掲載誌等
13.5.16	造山古墳	航空写真	1	(有)ハマユ	『ジュニア総合百科』
13.6.19	南方(済生会) 遺跡	石巒の刺さった彌	1	雄山閣株式会社	『季刊考古学第76号』
		航空写真	1		
13.8.3	造山古墳	造山古墳側面	1	株式会社青澤社	『週刊ビジュアル日本の歴史』84・85・86号
		後円部所在石棺	1		
13.9.5	南方(済生会) 遺跡	打製石劍	5	高田浩司	論文掲載
		打製石包丁	1		
		イノシシ下顎骨と木製品の出土状況	1		
13.9.19	南方(済生会) 遺跡	さじとフォーク	2	株式会社講談社	週刊「再現日本史」第35号
		黒漆塗りジョッキ	1		
13.10.2	造山古墳	航空写真	1	東京書籍株式会社	『ビジュアルワイド中学校社会科歴史資料集』
13.10.19	南方(済生会) 遺跡	木製匙	1	(株)日本放送出版協会	「日本人はるかな族④～イエ、知られるさる1万年の旅～」
13.10.25	北方長田遺跡	出土資料		岡山市北方四日市町内会	展示
13.11.1	南方(済生会) 遺跡	ブタ下顎骨出土状況	1	(株)日本放送出版協会	「日本人はるかな族③～海が育てた森の王国～」
13.11.7	岡山城	水琴窟	1	(株)至文堂	「日本の美術 第429号(発掘された庭園)」
13.11.15		木村コレクション備前船利	1	入澤企画制作事務所	『季刊陶磁郎』第29号
		木村コレクション備前舟徳利	1		
13.11.27	造山古墳	航空写真	1	真備町教育委員会	「真備町歴史民俗資料館」内グラフィックパネル
13.12.3	備中高松城水攻め築堀跡	登録調査全景	1		
		備前城跡検出状況	1	株式会社テレビキッズオフィス	「知ってるつもり?!(建築家秀吉編)」
		軌跡検出状況	1		
13.12.21		木村コレクション耳付水指	1		
		木村コレクション鳥帽子水指	1	コンテンツ株式会社	デジタルデータ作成
		木村コレクション火燐茶碗	1		
		木村コレクション大布袋香炉	1		
14.1.7	二日市遺跡	堀場	1	株式会社第一学習社	「高等学校用文部科学省検定教科書 現代文」
14.1.8	奥池3号墳	奥池3号墳	1	三田市長	「市史研究さんだ 第5号」
		特殊器台片	4		
14.1.16	経塚丘墓	器台片	1		
	吉野口遺跡	器台片	1		
	長板1号墳	器台	1	岡山県立博物館	特別展「王墓を彩る～特殊器台の系譜～」
	長板1号墳	壺	2		
	長板1号墳	特殊壺	1		
	津寺(加茂小) 遺跡	特殊器台片	1		
14.1.21	南方(済生会) 遺跡	イノシシ下顎骨配列状況	1	株式会社青澤社	『週刊ビジュアル日本の歴史』109号
14.1.28	造山古墳	航空写真	1	藤井寺市教育委員会	「津島城山古墳-巨大な古墳の謎にせまる-」
14.2.13	造山古墳	映像		株式会社フィックス	教材用デジタルコンテンツのデータベース
		イノシシ下顎骨配列状況	1		
14.3.14	南方(済生会) 遺跡	黒漆塗りジョッキ形木製品	1	朝日新聞社	『週刊朝日百科 日本の歴史』第1号
		木製甲札	1		

資料の借用

(1件)

遺跡名	資料名	点数	期間	借用先	事由
大島周辺	ナイフ形石器など	14	13.7.21～14.7.20	小野 伸・小野 勢	常設展示

資料調査

(5件)

氏名	所属	資料名
梅木謙一	松山市埋蔵文化財センター	百間川沢田（市道）遺跡 弥生土器
岡安雅彦	安城市歴史博物館	縄文晩期～弥生後期の有黒斑土器
松尾洋平	総社市教育委員会	ハガ（高島小）遺跡 踏脚硯
中川律子	静岡県教育庁文化課	南方釜田・南方（済生会）遺跡 琴
池田敏宏	とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	賞田廃寺・ハガ（高島小）遺跡 瓦塔

視察

(2件)

年月日	氏名等	目的
13.10.29	岐阜市文化財保護審議会 6名	施設見学
14. 2.12	沼津市議会議員土屋春夫	行政視察

現地説明会

平成13年度は、下記の遺跡で現地説明会を実施した。いずれも多くの方々の参加を得ることができたことは、市民の埋蔵文化財に対する関心の高さをうかがわせるものであった。今後もできる限り説明会を開催して、多くの方々が地域の歴史に触れることができるよう、発掘調査成果の公開に努めたい。

- ハガ（高島小プール）遺跡
平成13年4月14日（土）参加者450名
- 吉備津杉尾西・奥田遺跡
平成13年12月22日（土）参加者100名



ハガ（高島小プール）遺跡



吉備津杉尾西遺跡



吉備津奥田遺跡

平成13年度埋蔵文化財発掘調査速報展

平成3年度から毎年、文化の日を中心とする文化財保護強調週間（11月1日～7日）にあわせて、発掘調査速報展を実施している。

期間 平成13年10月31日（水）～11月2日（金）

場所 岡山市役所1階市民ホール

内容 ハガ（高島小）遺跡 瓦、羊形硯、三彩陶器、瓦塔、泥塔、墨書き土器、埴輪など

川入・中撫川遺跡 弥生土器、土師器、海獣葡萄鏡、墨書き木簡など

足守深茂遺跡 繩文土器、石器など

岡山城石垣修理 五輪塔、宝篋印塔など

金山寺三重塔保存修理 三重塔基壇、護摩堂鰐口

平成13年度埋蔵文化財発掘調査報告会

期間 平成13年11月10日（土）

場所 埋蔵文化財センター会議室

内容 上記速報展で展示した遺跡等のスライド写真による報告と出土物等の解説

報告書等の刊行

『岡山城三之曲輪跡　—表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査—』

『新道遺跡　—備前国鹿田庄関連遺跡の発掘調査報告—』

『岡山市埋蔵文化財センター年報1　2000（平成12）年度』

『岡山市遺跡地図　1：50,000』

ホームページの公開

・ホームページ公開の意義

埋蔵文化財の公開・周知化は「国民共有の財産」という理念上も、保護の観点からも重要な課題といえる。当教育委員会ではこれまで、各発掘調査における現地説明会の開催、岡山市役所1階ホールでの埋蔵文化財発掘速報展の開催のほか、各遺跡発掘調査報告書、「埋蔵文化財調査の概要」、岡山市埋蔵文化財分布地図の整備、出版など埋蔵文化財の公開・周知化に努めてきた。ホームページの公開もPC（パーソナルコンピューター）およびそのネット接続という制約はあるものの、場所や時間を選ばず自由に閲覧できるという点で重要な媒体の一つに位置づけられる。

・ホームページの改良と更新

岡山市埋蔵文化財センターホームページは平成13年3月中旬の試験的な公開の後4月2日に本格運用を開始した。

新たなホームページでは、基本的な構成は試験運用時のものを踏襲しつつ、メニュー・フレームを利用しページ間の移動に配慮するとともに、壁紙も装飾古墳として有名な岡山市千足の千足古墳の石障直弧文のデザインを利用するなど、大幅にデザイン等を一新している。また、アクセスカウンター、県内の考古学・埋蔵文化財関連サイトへのリンク集を設置するなど新たな試みも行っている。6月には、アクセシビリティ改善のため文字のコントラストを強くし、画像に代替テキストを設定したほか、フレームに対応していないブラウザに配慮し代替ページの作成やメニュー・フレーム以外にもインデックスを設けた。また、研究目的や一般爱好者に広く利用していただくため試作版ではあるが、「岡山市の主要古墳」「岡山市の発掘調査リスト」を作成した。その後、現地説明会資料の掲載や、「収蔵品紹介」増加に対応した「陳列室」の設置、画像の増加を抑えるためボタンなどの廃止、不要な文字画像のテキスト化、フレームの廃止、背景画像の変更などを試行錯誤しながら行っている。

なお、「発掘調査情報」、「現地説明会資料」、「収蔵品紹介」の「今月の一品」を中心に月一度、月初めの更新が定着している。

・ホームページの構成

ホームページはトップページ以下、埋蔵文化財センターの施設や業務などを紹介するページと発掘調査や収蔵品などの考古学的情報を紹介するデーターベース的のページの大きく2部構成をとっている。

●センターの案内

「来館案内」 センターの位置や開館情報を掲載。

「施設案内」 センターの建物や施設・設備を紹介。

「展示案内」 センター展示室の展示の様子を紹介。リットシティミュージアムで公開しているセンター展示室の3D映像へのリンクも設けている。

(<http://www.city.okayama.okayama.jp/museum/maizou/>)

● センターの仕事

「センターの業務」 センターの業務内容の紹介。

「出版物案内」 岡山市教育委員会が刊行している発掘調査報告書等の紹介と案内。

● もっと知りたい

「Q & Aコーナー」 センターに寄せられた質問等にお答えするページ。

「リンクのコーナー」 岡山市の文化財課や文化財関連施設、県内の発掘調査機関、考古学系の資料館等のサイトへのリンク集。

★ 発掘調査情報

「発掘調査情報」 平成12年度から現在実施中の発掘調査の情報。

「現地説明会資料」 これまでに開催した発掘調査の現地説明会資料をHTML形式で掲載。今年度は以下の8遺跡を掲載した。

西大寺一宮育苗公園遺跡（1977）

上道北方坂口古墳・塚段1号墳・塚段2号墳（1984）

南坂1号墳・南坂遺跡（1984/12/01）

妹尾住田遺跡現地説明会資料（1999）

川入・中撫川遺跡現地説明会資料（2001/01/13）

ハガ（高島小ブル）遺跡現地説明会資料（2001/04/14）

吉備津川尾西・奥田遺跡現地説明会資料（2001/12/22）

赤田東（竜操中）遺跡現地説明会資料（2002/04/27）

★ 収蔵品紹介

「今月の一品」 収蔵品の中から毎月1件ずつを選んで紹介する。今年度は以下の12件を紹介。

第2回 長坂古墳出土 特殊器台形土器

第3回 南方（済生会）遺跡出土 戈形木製品

第4回 伝・千足古墳出土遺物

第5回 新道遺跡出土 木簡

第6回 川入・中撫川遺跡出土 軒丸瓦

第7回 大鳥採集の旧石器

第8回 南方釜田遺跡出土の器台形土器

第9回 造山第4号古墳出土の家形埴輪

第10回 岡山城二の丸跡出土の金箔押し鬼瓦

第11回 南方（国体開発）遺跡出土 土馬

第12回 上道北方塚段古墳群出土の玉類

第13回 南方釜田遺跡出土 繩文土器

「陳列室」 これまでに紹介してきた「今月の一品」の増加に伴い、収蔵品紹介ページのインデックスを新設。

- ★ 岡山市の主要古墳（試作版） 岡山市域に所在する主要な古墳40基を紹介。
- ★ 岡山市の発掘調査（試作版） 岡山市教育委員会が1968年以降実施した発掘調査のリスト。
- ・ホームページ周知化とアクセス数

本格運用を機に、ホームページの利用促進と周知化を目的にYahoo!Japanに登録した。また、公共機関のホームページという性格上リンクフリーとはしていないが、リンクの依頼があった場合には積極的に許可している。ただし、企業サイトなどにおいては企業の実績などのコマーシャリズムに結びつかないよう注意するとともに、許可条件とした。アクセス数に関しては月ごとの集計はしていないが、平成14年3月末で4378を数え、サイトの充実、定期更新の定着とともに増加していっている。

URL <http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/>

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

平成13年度から当協議会に入会し、平成13年度総会に出席した。

期日 平成13年5月24日（木）～5月25日（金）

場所 奈良市

4 受贈図書

昭和38年から平成10年までの多年にわたり、当市の文化財専門委員、文化財保護審議会委員、同会長を歴任された水内昌康氏から下記の通り265冊におよぶ蔵書の寄贈を受けた。いずれも歴史研究には欠かせない文献であり、感謝するとともに『箕山文庫』として永く活用したい。

番号	書名	シリーズ名	編著者名	発行年
1	平安京古瓦図録		平安博物館	1977
2	平城宮木簡 一 平城宮発掘調査報告V 奈良國立文化財研究所史料 第五冊		奈良國立文化財研究所	1969
3	平城宮木簡 二 解説 奈良國立文化財研究所史料 第八冊		奈良國立文化財研究所	1975
4	平城宮木簡 三 図録 奈良國立文化財研究所史料 第十七冊		奈良國立文化財研究所	1980
5	平城宮木簡 四 解説 奈良國立文化財研究所史料 第二十八冊		奈良國立文化財研究所	1981
6	平城宮木簡 四 図録 奈良國立文化財研究所史料 第二十九冊		奈良國立文化財研究所	1986
7	国宝 長本城（改訂版）解体と復元 竹内力		竹内力	1979
8	7古鏡 柄口隆康		柄口隆康	1979
9	東奈良遺跡発掘調査概報 I （財）大阪文化財センター		（財）大阪文化財センター	1980
10	瓜生井・五歳自転車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘 調査概要報告書 （財）大阪文化財センター		（財）大阪文化財センター	1980
11	龜井・城山 対馬川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事 奈良國立文化財研究所史料 第十二冊		奈良國立文化財研究所	1978
12	藤原宮木簡 一 図録（解説付） 奈良國立文化財研究所史料 第十八冊		奈良國立文化財研究所	1980
13	藤原宮木簡 二 図録 奈良國立文化財研究所史料 第十八冊		奈良國立文化財研究所	1981
14	弥生式土器集成 1 小林行雄・杉原莊介		小林行雄・杉原莊介	1958
15	弥生式土器集成 2 小林行雄・杉原莊介		小林行雄・杉原莊介	1961
16	日本考古学史資料集成 1 江戸時代 齊藤忠		齊藤忠	1979
17	日本考古学史資料集成 2 明治時代一 齊藤忠		齊藤忠	1979
17	日本考古学史資料集成 3 明治時代二 齊藤忠		齊藤忠	1979

番号	書名	シリーズ名	編著者名	発行年
18	金峯山經塚遺物の研究	帝室博物館學報第八	帝室博物館	1979
19	日本の古墳		木永雅雄	1961
20	經塚遺宝		奈良國立博物館	1977
21	古鏡聚英 下篇 隋唐鏡より和鏡		後藤守一	1977
22	古鏡聚英 上篇 奈鏡と漢六鏡		後藤守一	1977
23	秦琅渙墓 第一冊		秦琅渙墓刊行会	1974
24	秦琅渙墓 第二冊		秦琅渙墓刊行会	1975
25	前方後円墳集成 中国・四国編		近藤義郎	1991
26	斯波千塚 126号墳		櫻原考古学研究所	1977
27	文化財写真集 美山の美と心		山陽新聞社	1990
28	韓国の考古学		金廷鶴	1972
29	朝鮮古文化総覧 第一卷 横濱前期		梅原末治・藤田亮策	1947
30	木器集成図録 近畿古代編	奈良國立文化財研究所史料 第27冊	奈良國立文化財研究所	1985
30	木器集成図録 近畿原始編 (解説)	奈良國立文化財研究所史料 第36冊	奈良國立文化財研究所	1993
31	木器集成図録 近畿原始編 (図版)	奈良國立文化財研究所史料 第36冊	奈良國立文化財研究所	1993
32	山陰の前期古墳文化の研究 I 東伯耆I・東郷池周辺	山陰考古学研究所記録2	山陰考古学研究所	1978
33	伊丹木鏡	伊丹遺跡発掘調査報告第一	浜松市郷土博物館	1976
34	土師式土器集成 本編 I (前期)		杉原莊介・大塚初重	1971
35	土師式土器集成 本編 II (中期) 占墳出土の土師式土器 I		杉原莊介・大塚初重	1972
36	土師式土器集成 本編 III (後期)		杉原莊介・大塚初重	1973
37	土師式土器集成 本編 IV (晩期) 古墳出土の土師式土器II		杉原莊介・大塚初重	1974
38	海の正倉院 沖ノ島		毎日新聞社	1972
39	韓国斗 方前後圓墳 舞阪山口 長鼓山 測量調査報告書	報告論叢87-1	筆し求	1987
40	朝鮮瓦塼図譜 II 高句麗		井内古文化研究室	1976
41	朝鮮瓦塼図譜 IV 新羅2		井内古文化研究室	1977
42	天馬塚 発掘調査報告書		大韓民国 文化広報部 文化財管理局	1975
43	樂浪流歌集		朝鮮古蹟研究會	1989
44	武寧王陵		大韓民国文化財管理局	1974
45	日本歴史地図 原始・古代編 (上)		竹内理三 他	1982
46	日本歴史地図 原始・古代編 (下)		竹内理三 他	1982
47	須恵器大成		田沢明三	1981
48	遠賀川 (複刻版) 筑前立屋敷遺跡調査報告		杉原莊介	1968
49	特別史跡彦根城跡御殿発掘調査・復元工事報告書	彦根城博物館調査報告 I	彦根城博物館	1988
50	飛鳥白鳳の古瓦 (複刻版)		奈良國立博物館	1982
51	流木文御陣の研究		三木文雄	1974
52	史跡森吉草塙古墳保存整備事業発掘調査報告書		森吉草塙古墳発掘調査団	1992
53	立岩遺跡		立岩遺跡開発委員会	1977
54	秦銅缶		町田一	1984
55	日本の三彩と綠釉		京島美術館	1974
56	竹並遺跡		竹並遺跡調査会	1979
57	業御寺発掘調査報告	奈良國立文化財研究所学報 第四十五冊	奈良國立文化財研究所	1987
58	石川県能都町真庭遺跡 農村基盤結合整備事業能都東地区真庭 工区に係る発掘調査報告		山田芳和	1986
59	宗像 沖ノ島		第三次沖ノ島学術調査隊 岡崎敬	1979
60	平城宮跡第一次伝飛鳥板蓋宮跡 発掘調査報告 尉尊勝寺跡発掘調査報告	奈良國立文化財研究所学報 第十冊	奈良國立文化財研究所	1961
61	平城京発掘調査報告 II 宮衙地域の調査	奈良國立文化財研究所学報 第十五冊	奈良國立文化財研究所	1962
62	平城京発掘調査報告 III 内裏地域の調査	奈良國立文化財研究所学報 第十六冊	奈良國立文化財研究所	1962
63	平城京発掘調査報告 IV 官衙地域の調査2	奈良國立文化財研究所学報 第十七冊	奈良國立文化財研究所	1966
64	飛鳥・白鳳の在銘金剛仏		奈良國立文化財研究所 飛鳥資料館	1979
65	日本古代の墓誌	奈良國立文化財研究所飛鳥資料 館図録第三冊	奈良國立文化財研究所 飛鳥資料館	1977
66	日本古代の墓誌		奈良國立文化財研究所 飛鳥資料館	1979
67	川原寺発掘調査報告	奈良國立文化財研究所学報 第九冊	奈良國立文化財研究所	1960

番号	書名	シリーズ名	編著者名	発行年
68	特別史跡一乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ 朝倉館跡の調査		朝倉氏遺跡調査研究所	1976
69	鳥浜貝塚 稲文前期を主とする低湿地遺跡の調査1		鳥浜貝塚研究グループ	1979
70	鳥浜貝塚 稲文前期を主とする低湿地遺跡の調査3		鳥浜貝塚研究グループ	1983
71	日本古代の斑鳩	奈良国立文化財研究所飛鳥資料 館図録第七冊	奈良国立文化財研究所飛鳥 資料館	1980
72	飛鳥寺發掘調査報告	奈良国立文化財研究所学報 第五冊	奈良国立文化財研究所	1958
73	百濟の古瓦		韓国忠南大学百濟研究所	1976
74	飛鳥時代の古墳		奈良国立文化財研究所飛鳥 資料館	1981
75	喜兵衛島 阿斐式土器製造遺跡群の研究		喜兵衛島研究会	1999
76	平城京出土墨書き土器集成Ⅰ	奈良国立文化財研究所30周年記念 史料第二十五冊	奈良国立文化財研究所	1983
77	平城京発掘調査報告Ⅱ 内裏北外郭の調査	奈良国立文化財研究所学報 第二十六冊	奈良国立文化財研究所	1976
78	肥後に於ける装飾ある古墳及横穴	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第一冊	濱田耕作・梅原末治	1976
79	河内国府石器時代遺跡発掘報告等	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第二冊	濱田耕作・梅原末治・ 島田貞彦・鈴木本文太郎	1976
80	九州に於ける装飾ある古墳	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第三冊	濱田耕作・梅原末治・ 島田貞彦	1976
81	河内国府石器時代遺跡第二回発掘報告等	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第四冊	濱田耕作・長谷部言人	1976
82	備中津井貝塚発掘報告等	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第五冊	清野謙次・島田貞彦・ 濱田耕作・柳原政義	1976
83	蘆原山貝塚発掘報告等	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第六冊	濱田耕作・島田貞彦・ 長谷部言人	1976
84	吉利支丹遺物の研究 附録 日本吉銅利器集成	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第七冊	新村出・濱田耕作・ 梅原末治	1976
85	近江國高島郡水尾村の古墳 附録日本發見金製耳飾刀劍 環頸 同形角具集成	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第八冊	濱田耕作・梅原末治	1976
86	豐後崖岸石仮面の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第九冊	濱田耕作	1976
87	出雲上代玉作遺物の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十冊	濱田耕作・島田貞彦・ 梅原末治	1976
88	筑前須恵史前遺跡の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十一冊	島田貞彦・梅原末治	1976
89	讃岐高松岩清尾山石塚の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十二冊	梅原末治	1976
90	新羅古瓦の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十三冊	濱田耕作・梅原末治	1976
91	大和島庄石葺墓の巨石古墳	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十四冊	濱田耕作・高橋逸夫・ 梅原末治	1976
92	筑前国嘉穂郡王塚装飾古墳	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十五冊	梅原末治・小林行雄	1976
93	大和唐古弥生式遺跡の研究	京都帝國大學文學部 考古學研究報告第十六冊	小林行雄・末永智雄・ 藤岡謙二郎	1976
94	飛鳥時代寺院址の研究		石田茂作	1977
95	飛鳥京跡 一	奈良県史跡名勝天然記念物 調 査報告第二十六冊	櫻原考古学研究所 所長 末永雅雄	1971
96	日本農耕文化の生成 第一冊 本文集		杉原莊介	1961
97	日本農耕文化の生成 第二冊 図録篇		杉原莊介	1960
98	登昌		日本考古学協会	1978
99	三角縁神獸鏡総鑑		樋口隆康	1992
100	平泉 毛越寺と親在王院の研究		藤島寅治郎	1961
101	和泉黄金塚古墳		末永雅雄・鶴田曉・森浩一	1980
102	下船岡の玉作遺跡		寺村光晴	1974
103	安養寺瓦経の研究		辻本義昌	1963
104	岡山県笠岡市高島遺跡調査報告		坪井清足	1956
105	早水台(大分県速見郡日出町所在)		八幡一郎・賀川光夫	1955
106	韓国の建築と藝術 覆刻 韓国建築調査報告		東京帝國大学工科大学・ 閔屋貞	1988
107	河内野中古墳の研究		北野耕平	1976
108	久津川古墳研究		梅原末治	1973
109	佐味田と新山古墳研究		梅原末治	1973

番号	書名	シリーズ名	編著者名	発行年
110	纏向 奈良県桜井市纏向遺跡の調査		石野博信・閑川尚功	1976
111	平出 長野縣宗賀村古代集落遺跡の総合研究		平出遺跡調査会	1955
112	高地性集落跡の研究 資料篇		小野忠典	1979
113	七重り鏡塚古墳 稲木県下都賀郡大平町		大和久藏平	1974
114	末廣園 佐賀県唐津市・東松浦郡の考古学的調査研究		唐津湾周辺遺跡調査委員会	1982
115	西安半坡 原始氏族公社聚落遺址	中國田野考古報告集 考古學專刊丁種第十四號	中國科学院考古研究所・陝西省西安半坡博物館	1978
116	北朝鮮考古学の新発見		齊藤忠	1996
117	明鏡錄		坪井良平	1974
118	世界考古学大系 第1巻日本I 先繩文・繩文時代		八幡一郎 他	1959
119	世界考古学大系 第2巻日本II 漢生時代		杉原莊介 他	1960
120	世界考古学大系 第3巻日本III 古墳時代		小林行雄 他	1959
121	世界考古学大系 第4巻日本IV 歴史時代		浅野清・小林行雄 他	1961
122	世界考古学大系 第5巻東アジアI 先史時代		間野雄 他	1960
123	世界考古学大系 第6巻東アジアII 取經時代		水野清一 他	1958
124	世界考古学大系 第7巻東アジアIII 漢・南北朝・隋・唐時代		鈴木和愛 他	1959
125	世界考古学大系 第8巻南アジア		水野清一 他	1961
126	世界考古学大系 第9巻北方ユーラシア・中央アジア		角田文甫 他	1962
127	世界考古学大系 第10巻西アジアI 前第3千年前紀まで		江上波夫 他	1959
128	世界考古学大系 第11巻西アジアII 前第2千年前紀以後 ササン朝ペルシアまで		江上波夫 他	1962
129	世界考古学大系 第12巻ヨーロッパ・アフリカI 先史時代		江上波夫・鶴口隆康 他	1961
130	世界考古学大系 第13巻ヨーロッパ・アフリカII エジプト・エーゲー		新矩房男・村田敏之亮 他	1960
131	世界考古学大系 第14巻ヨーロッパ・アフリカIII ギリシア・ローマ		角田文甫 他	1960
132	世界考古学大系 第15巻アメリカ・オセアニア		石田英一郎・梶靖一 他	1959
133	世界考古学大系 第16巻研究法・索引		江上波夫・水野清一 他	1962
134	加曾利南貝塚		杉原莊介	1976
135	夢科	尖石考古館研究報告叢書 第Ⅱ冊	宮坂英次・宮坂虎次	1966
136	古代玉作の研究		寺村光晴	1966
137	三つ城古墳 広島県賀茂郡西条町	廣島縣文化財調査報告 (人文編)第一輯	広島県教育委員会	1954
138	茨城県馬渡における埴輪制作所	明治大学文学部研究報告 考古学第六編	大塚初重・小林三郎	1981
139	美作古城史 第一編		寺坂五夫	1977
140	撫養弥生墳丘墓の研究		近藤誠郎	1992
141	紫雲出 香川県三豊郡津町紫雲出山弥生式遺跡の研究		小林行雄・佐原真	1964
142	川柳村若軍塚の研究	伝承教育會更級部會更級部 史料第一輯	森本六爾	1929
143	下野薬師寺発掘調査報告	栃木県埋蔵文化財報告書 第11集	栃木県考古学会	1973
144	長瀬高浜遺跡発掘調査報告書 III 天神川流域下水道事業に伴う埋蔵文化財報告書	鳥取県教育文化財團報告書 8 (附)鳥取県教育文化財團	鳥取県教育文化財團	1961
145	田能遺跡発掘調査報告書	尼崎市文化財調査報告第15集	尼崎市教育委員会	1983
146	神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚	明治大学文学部研究報告 考古学第二冊	杉原莊介・芹沢長介	1957
147	群馬県岩宿発見の石器文化	明治大学文学部研究報告 考古学第一冊	杉原莊介	1956
148	懸浜磨寺 福島市史資料叢書特集		福島市史編纂委員会	1965
149	大歳山遺跡の研究		吉良信夫	1987
150	筑津伊丹廐寺跡 発掘調査報告書		伊丹市教育委員会	1966
151	挂甲の系譜		末永雅道・伊東信雄	1979
152	森山原 その考古学的調査 第1回		近藤義郎	1954
153	津山弥生住居址群の研究 西地区	津山郷土館考古学研究報告 第2巻	近藤義郎・浜谷泰彦	1967
154	金雞山古墳の研究		森本六爾	1978
155	月の輪古墳		近藤義郎	1960
156	志登支石墓群(福岡県糸島郡前原町所在)	埋蔵文化財発掘調査報告第四	文化財保護委員会	1956
157	日本貝塚の研究		清野謙次	1969
158	縄文文化の研究 第1巻 縄文人とその環境		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1982

書名	シリーズ名	編著者名	発行年
159 繩文文化の研究 第2巻 生業		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1983
160 繩文文化の研究 第3巻 繩文土器I		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1982
161 繩文文化の研究 第4巻 繩文土器II		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1981
162 繩文文化の研究 第5巻 繩文土器III		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1983
163 繩文文化の研究 第6巻 繩文・南島文化		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1982
164 繩文文化の研究 第7巻 道具と技術		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1983
165 繩文文化の研究 第8巻 社会・文化		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1982
166 繩文文化の研究 第9巻 繩文人の精神文化		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1983
167 繩文文化の研究 第10巻 繩文時代研究史		加藤晋平・小林達雄・藤本強	1984
168 弥生文化の研究 第2巻 生業		金岡想・佐原真	1988
169 弥生文化の研究 第5巻 道具と技術I		金岡想・佐原真	1985
170 弥生文化の研究 第6巻 道具と技術II		金岡想・佐原真	1986
171 弥生文化の研究 第7巻 弥生集落		金岡想・佐原真	1986
172 弥生文化の研究 第8巻 弥生人の祭りと墓と装い		金岡想・佐原真	1987
173 弥生文化の研究 第9巻 弥生人の世界		金岡想・佐原真	1986
174 古墳時代の研究 第4巻 生産と流通I		石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎	1991
175 日本の旧石器文化 第1巻 総論編		麻生優・加藤晋平・藤本強	1975
176 日本の旧石器文化 第2巻 遺跡と遺物<上>		麻生優・加藤晋平・藤本強	1975
177 日本の旧石器文化 第3巻 遺跡と遺物<下>		麻生優・加藤晋平・藤本強	1976
178 日本の旧石器文化 第4巻 日本周辺の旧石器文化		麻生優・加藤晋平・藤本強	1976
179 日本の旧石器文化 第5巻 旧石器文化の研究法		麻生優・加藤晋平・藤本強	1976
180 高勾鼻墳古 墓と祭祀人	雄山閣歴史叢書9	水野祐	1972
181 日本考古学史辞典		齐藤忠	1984
182 日本考古学の現状と課題		日本歴史学会	1975
183 日本原始繪養		高橋健自	1927
184 渡式鏡		後藤守一	1973
185 倭団の古墳		金基雄	1978
186 百濟の古墳		金基雄	1976
187 韓国考古学概論		金元龍	1972
188 百濟文化と飛鳥文化		田村潤満・黄壽永	1978
189 稲倉考	考古民俗叢書16	八幡一郎	1978
190 新羅の古墳		金基雄	1976
191 日本塩業大系 資料編 考古		日本塩業大系編集委員会	1978
192 展望 アジアの考古学 總口隆康教授退官記念論集		横口隆康・他	1983
193 東アジアの初期銅器文化		潮見浩	1982
194 漢鮮原始墳墓の研究	東北アジア史研究第一	三上次男	1961
195 岩波講座 日本書紀 1 研究の方法		近藤義郎・横山浩一・他	1985
196 岩波講座 日本書紀 2 人間と環境		近藤義郎・横山浩一・他	1985
197 岩波講座 日本書紀 3 生産と流通		近藤義郎・横山浩一・他	1986
198 岩波講座 日本書紀 4 采集と祭祀		近藤義郎・横山浩一・他	1986
199 岩波講座 日本書紀 5 文化と地域性		近藤義郎・横山浩一・他	1986
200 岩波講座 日本書紀 6 変化と周期		近藤義郎・横山浩一・他	1986
201 岩波講座 日本書紀 7 現代と考古学		近藤義郎・横山浩一・他	1986
202 岩波講座 日本書紀 別巻1 日本書紀学研究の現状		近藤義郎・横山浩一・他	1986
203 文獻解題 I		近藤義郎・横山浩一・他	1986
204 岩波講座 日本書紀 別巻2 日本書紀学研究の現状		近藤義郎・横山浩一・他	1986
205 文獻解題 II		近藤義郎・横山浩一・他	1986
206 六國史 卷壹 日本書紀 卷上		佐伯有義	1928
206 六國史 卷貳 日本書紀 卷下		佐伯有義	1929
206 六國史 卷參 續日本紀 卷上		佐伯有義	1929
207 六國史 卷四 續日本紀 卷下		佐伯有義	1929
208 六國史 卷五 日本書紀 全		佐伯有義	1929
209 六國史 卷六 續日本後紀 全		佐伯有義	1930
210 六國史 卷七 文藝實錄 全		佐伯有義	1930
211 六國史 卷八 三代實錄 卷上		佐伯有義	1930
212 六國史 卷九 三代實錄 卷下		佐伯有義	1930

番号	書名	シリーズ名	編著者名	発行年
213	六國史 略拾 参引		佐伯有義	1931
214	六國史 略拾壹 年表		佐伯有義	1931
215	新版 仏教考古学講座 第1巻 総説		石田茂作 他	1976
216	新版 仏教考古学講座 第2巻 寺院		石田茂作 他	1975
217	新版 仏教考古学講座 第3巻 塔・塔婆		石田茂作 他	1976
218	新版 仏教考古学講座 第4巻 仏像		石田茂作 他	1976
219	新版 仏教考古学講座 第5巻 仏具		石田茂作 他	1976
220	新版 仏教考古学講座 第6巻 經典・經塚		石田茂作 他	1977
221	新版 仏教考古学講座 第7巻 墳墓		石田茂作 他	1975
222	日本の古代米	雄山閣考古学叢書1	佐藤敏也	1971
223	シンボジウム 仏教考古学序説	雄山閣考古学叢書2	坂詰秀一	1971
224	日本の古代瓦窯	雄山閣考古学叢書3	大川清	1972
225	銅の考古学	雄山閣考古学叢書4	中口裕	1972
226	百滴の考古学	雄山閣考古学叢書5	大川清	1972
227	織文の漁業	雄山閣考古学叢書7	渡辺誠	1973
228	鉄の考古学	雄山閣考古学叢書9	渡田藏郎	1973
229	前方後方墳	雄山閣考古学叢書11	茂木雅博	1974
230	朱の考古学	雄山閣考古学叢書12	市毛照	1975
231	日本の古代瓦	雄山閣考古学叢書34	森鶴夫	1991
232	日本農耕社会の形成		杉原莊介	1977
233	姫路市史 第十四巻 貿易 経路城		姫路市史編集専門委員会	1988
234	新訂・増補 國史大系 第二部 1 律		黒板勝美	1951
235	新訂・増補 國史大系 第二部 2 令義解		黒板勝美	1951
236	新訂・増補 國史大系 第二部 3 令集解 前篇		黒板勝美	1953
237	新訂・増補 國史大系 第二部 4 令集解 中篇		黒板勝美	1955
238	新訂・増補 國史大系 第二部 5 令集解 後篇		黒板勝美	1955
239	新訂・増補 國史大系 第二部 6 類聚三才格 前篇		黒板勝美	1952
240	新訂・増補 國史大系 第二部 7 類聚三才格 後篇		黒板勝美	1952
241	新訂・増補 國史大系 第二部 8 延喜式 前篇		黒板勝美	1952
242	新訂・増補 國史大系 第二部 9 延喜式 中篇		黒板勝美	1952
243	新訂・増補 國史大系 第二部 10 延喜式 後篇		黒板勝美	1953
244	日本の考古学 I 先土器時代		杉原莊介	1965
245	日本の考古学 II 繩文時代		鶴木義昌	1965
246	日本の考古学 III 弥生時代		和鳥誠一	1966
247	日本の考古学 IV 古墳時代（上）		近藤義郎・藤沢長治	1966
248	日本の考古学 V 古墳時代（下）		近藤義郎・藤沢長治	1966
249	日本の考古学 VI 歴史時代（上）		三上次男・橋崎彰一	1967
250	日本の考古学 VII 歴史時代（下）		三上次男・橋崎彰一	1967
251	弥生土器 I		佐原真	1983
252	論集 日本の起源 第一巻 考古学		小林行雄	1971
253	古鏡の研究		富岡謙藏	1974
254	古墳時代の研究		小林行雄	1961
255	中國古鏡の研究		駒井和愛	1953
256	中国出土古鏡図録			1979
257	中世城郭の研究 関東地方に於ける築城遺構の実面とその諸問題		小室栄一	1965
258	中世の城と考古学		石井進・森原三雄	1991
259	定本 烏取城 その歴史と構造		山根卓恵	1983
260	天工開物の研究		戸内清	1955
261	土偶		江坂輝弥	1960
262	奈良朝時代民政経済の數的研究		澤田吾一	1927
263	日本青銅器の研究		杉原莊介	1972
264	日本の古墳墓		森本六齋	1987
265	梵鏡と考古学		坪井良平	1989

II 発掘調査等の概要

- ① 亀山城西の丸跡
- ② 湯迫蟹田遺跡
- ③ 史跡賞田廃寺
- ④ 赤田東（竜操中）遺跡
- ⑤ 鹿田本町遺跡
- ⑥ 備中高松城水攻め築堤跡
- ⑦ 吉備津杉尾西・奥田遺跡
- ⑧ 伝賀陽氏館跡
- ⑨ 千足古墳（造山古墳附第五古墳）



亀山城西の丸跡

所在地 岡山市沼
調査原因 介護施設建設
時代 戦国～江戸時代

調査期間 010917～011001
調査面積 250m²
担当者 高橋伸二

遺跡の概要 亀山城は旭川と吉井川の中間を流れる砂川の西岸に位置する小丘陵に築かれた連郭・輪郭折衷式の山城である。築城期は史料上不明確であるものの、天文初年頃（1532年頃）には有力国侍であった中山信正が居城としていた。

この城は、備前国を平定した宇喜多直家の戦国大名としての成長期の居城であり、備前国内では城郭規模、内容とも屈指のものであるが、後世の開墾や学校用地として利用されているため山麓部では城郭遺構が不明確である。

調査の概要 調査は建設が予定される建物の基礎部分を対象に実施した。そのため建物の基礎の形状に合わせ、17カ所の調査坑を設定した。

調査区の北半では現地表下約60cmから110cmで岩盤が検出されるが、大半はその直上まで近代以降の造成が及んでいる。

南半の調査区については、一部に江戸時代の造成土層が残存しており、現地表下約2～3mで岩盤に到達する。

以上のことから、当該地では明治期に建設された旧校舎や最近まで使用された仮設校舎の基礎工事や造成が深部まで及んでおり、明確な遺構を検出することができなかった。

まとめ 今回の調査では旧校舎の造成等により戦国期の城郭に関連する遺構を検出することはできなかつた。また、造成の及んでいない箇所についても僅かに江戸期の土層を確認したのみである。明確な遺構は確認できなかつたものの、本調査地は亀山城廃城後は集落の一部となっていた可能性がうかがわれる。



第1図 調査位置図



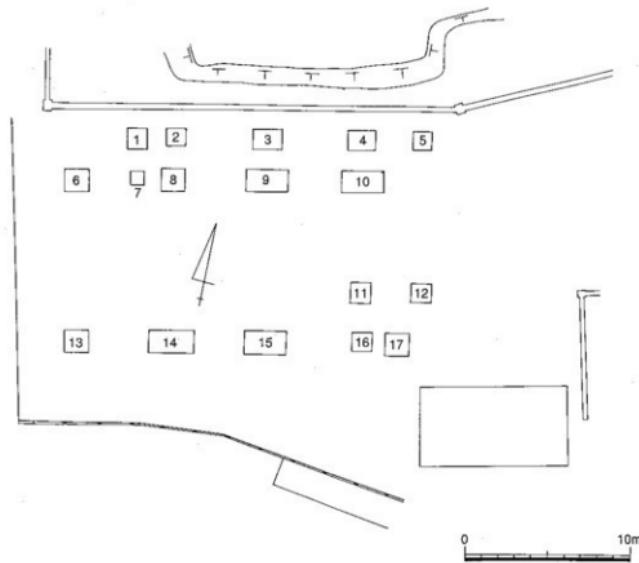
第2図 調査風景



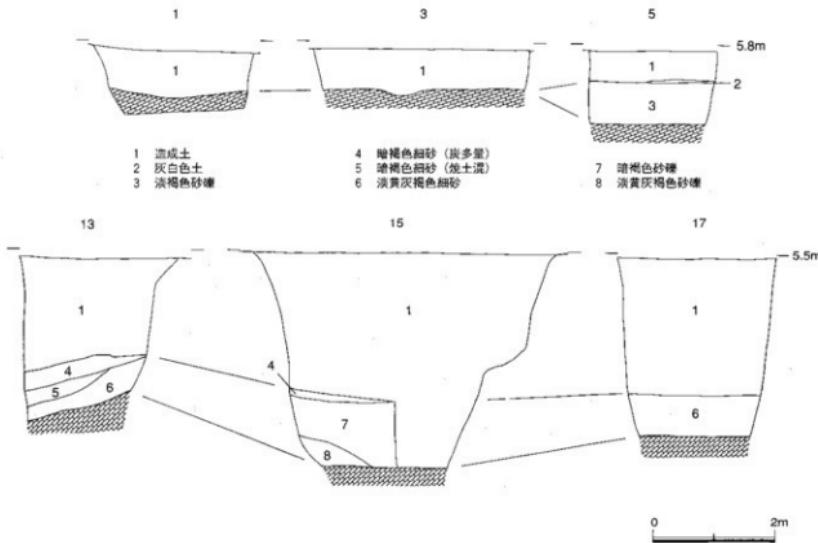
第3図 調査区（北から）



第4図 調査区（西から）



第5図 調査区配置図 (1/300)



第6図 土層断面図 (1/80)

湯迫蟹田遺跡

所在地 岡山市湯迫字蟹田244-3

調査原因 携帯無線基地局新設工事

時代 中世？

調査期間 011214~011218（実質1日）

調査面積 133m²

担当者 扇崎由・神谷正義

調査の経過 携帯電話が普及するにつれて、市内各所に携帯無線基地局の新設計画が多くなり、その予定地に埋蔵文化財が所在するか否かの事前の調査も多くなってきてている。当該地もその一環で、遺跡の有無の問い合わせがあった場所である。

当該地周辺は、従来から条里の地割りが良好に遺存する地域と把握されていたが、集落等を形成する遺跡の所在までは確認されていなかった。ところが、周辺地における立会や試掘等（西250mのJA高島ライスセンター、南150mの国府市場変電所、そして同竜ノ口保育園）で、条里地割りに先行する遺跡の所在が予測されるようになり、当該地も事前の試掘確認調査の実施をお願いした。

平成13（2001）年4月18日、2ヶ所の試掘坑を設定し確認調査が実施された。その結果、溝ないし土坑らしい落ち込みと基盤土層を検出した。そして湯迫蟹田遺跡と命名され、遺跡地であると判断された。

調査の概要 工事内容は通信鉄塔及び収容函の設置である。発掘調査の対象は、協議の結果、杭が打設される鉄塔基礎部分に限定されることとなり、平成13（2001）年12月14日に実施された。

まず、基本層序。試掘では水田耕作土が重層堆積している状況が捉えられ、中位に洪水起源と思われる砂の堆積も認められた。その直下に砂質が強い安定した層が形成されていて、土坑等の遺構が認められた。混在する土器細片から判断すると、古代～中世（おそらく中世）における基盤土層であろう。この土層下部は、徐々に粘質が強くなりグライ化していく。この基本層序は、調査区全域に適用できる。ただ、基盤土層は調査範囲内全面に認められるものの、東側はやや軟弱気味となる傾向がある。

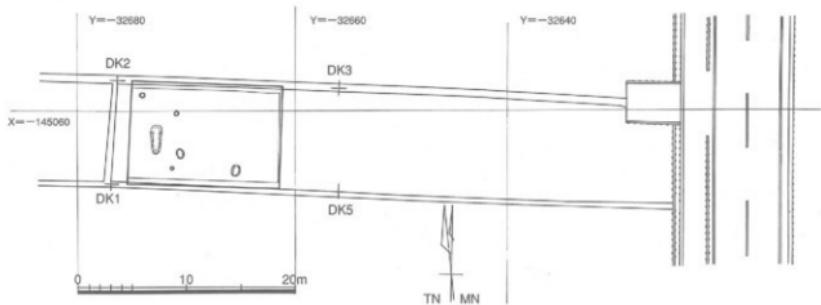
調査は、現耕作土及び旧水田土層をバックホーで除去し、基盤土直上から人力で精査していった。その結果、基盤土を掘り込むピット及び土坑6基を確認した。遺構埋土は、基本的に青灰色を基調と



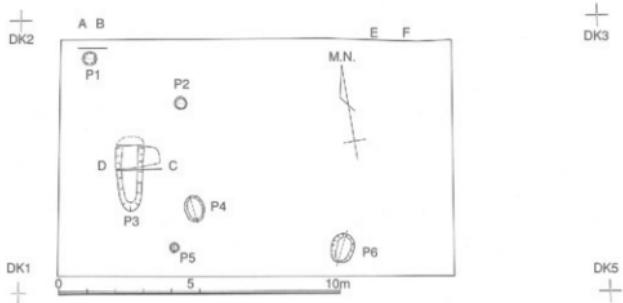
第1図 調査位置図



第2図 調査区位置図 (1/5,000)



第3図 調査区平面図



第4図 遺構配置図 (1/160)

した粘質土。浅いこともあり分層は困難であった。試掘時に溝と判断し、調査の契機となった遺構（P3）は、楕円形の土坑と判明した。

P1・P2（特にP2は柱根痕が認められた）は形状から柱穴と確実視されるが、他に関連する柱穴が認められず、建物等明瞭な遺構を認識するには至らなかった。他の遺構も、性格等は不明である。

まとめ 当該地の調査結果からは、柱穴と性格不明の遺構が検出されただけで、遺跡の評価に至る積極的な成果は見いだせなかった。しかし、当該地周辺は、条里地割りが遺存する地域として著名であり、現在も整然とした方格地割りを見ることができる。この条里地割りは、漠然と古代に施行された遺構と見なされている。今回調査された遺構は、明快な時期決定は出来なかったものの、条里地割りに先行する時期（可能性として中世）の遺構であり、条里施行時期の一検討資料となるであろう。

ちなみに、西250mのJA高島ライスセンターと南150mの



第5図 遺構掘り上げ状況（東から）



第6図 遺構掘り上げ状況（西から）



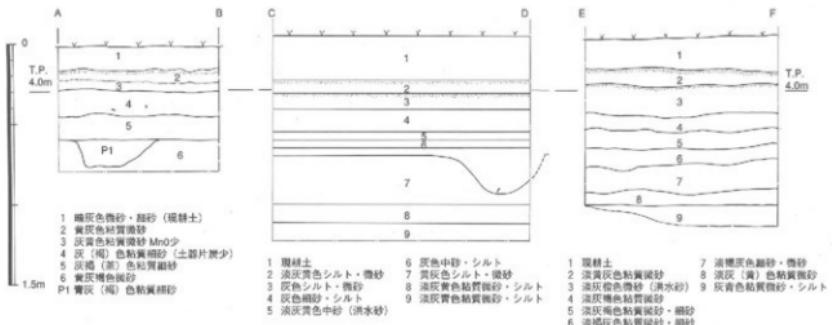
第7図 土層堆積状況（A-B）



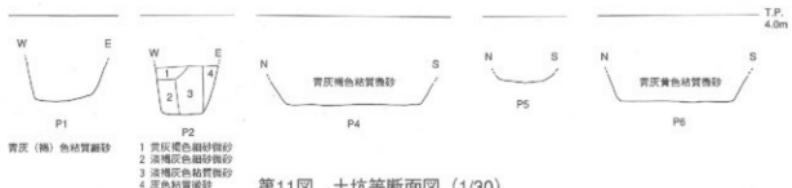
第8図 土層堆積状況（C-D）



第9図 土層堆積状況（E-F）



第10図 土層断面図（1/30）



第11図 土坑等断面図（1/30）



第12図 P2断面

国府市場変電所では、当該地と同様の土層堆積をしており基盤土も確認されている。また竜ノ口保育園敷地の北西部では、弥生土器を混入する河道と、弥生期の微高地をも確認している。現在見られる水田景観の下には、もっと複雑な地形が眠っているのである。その地形の復元が進み、条里施行以前の状況が把握されていくならば、当地における条里施行の歴史的な評価が深化することであろう。

関連書類の流れ 平成13年3月29日、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国取締役設備部長から、確認調査について依頼があり、それを受けて調査を実施。その結果を岡市教委文

第68号(平成13年4月23日付)で通知。岡市教委文第69号(平成13年4月23日付)で湯迫蟹田遺跡と命名。岡市教委文第470号(平成13年12月18日付)「埋蔵文化財発掘調査報告」を県教育委員会へ提出。

史跡賞田廃寺

所在地 岡山市賞田
調査原因 史跡環境整備
時代 古代～中世

調査期間 011203～020331
調査面積 700m²
担当者 扇崎 由・高橋伸二

遺跡の概要 賞田廃寺は、戦前から奈良・白鳳期の良好な瓦を出土する古代寺院跡として知られていたが、宅地開発計画により1970年緊急調査が行われた。その結果、飛鳥末創建で中世まで存続する、講堂・塔・西門・回廊・築地が良好に遺存している、塔・西門は地方に稀な凝灰岩壇正積基壇である、などが明らかとなり翌年国史跡に指定された。調査は指定地の公有化完了に伴い史跡整備計画を策定するため、未確定の金堂・中門・南門・食堂・僧房などの建物配置を明らかにすることを目的として、2001・2002年度でおこなう。

調査の概要 調査は、塔・西門・中門・南門・北回廊・北築地・南築地および西築地の検出を図った。塔基壇北辺には、基壇延石と地覆石が遺存しているが、階段はとりつかないので塔は東西2面階段と思われる。基壇前面の瓦溜まりは中世の再堆積と判明し、同中に基壇石材を包含することから基壇は中世に破壊を受けていることがわかった。西門は西辺北半が遺存している。北辺は延石抜き取り溝を検出した。前面の瓦溜まりは塔と同様に中世の再堆積である。なお、塔及び西門の瓦溜まり中から塔とも西門とも異なる第3の規格の基壇石が発見され、賞田廃寺には凝灰岩壇正積基壇が少なくとも3基存在したことが明らかとなった。第3基壇（70年調査時）北のトレンチ調査では、第3基壇背後には講堂などの建物が乗るような平坦面はなかった。主な出土物は、賞田I～V期の瓦の他、瓦経片・瓦塔・鷗尾などがある。



第1図 調査位置図



第2図 塔基壇北辺



第3図 西門基壇西辺

赤田東（竜操中）遺跡

所在地 岡山市赤田

調査原因 プール及び格技場建設

時代 弥生～室町

調査期間 010618～020531

調査面積 1520.25m²

担当者 草原孝典

遺跡の概要 赤田東遺跡は、旭川東岸の平野中央に位置する。西300mには白鳳期創建の幡多廃寺がある。かつておこなわれた幡多廃寺の発掘調査では、下層から弥生時代～古墳時代にかけての集落が検出されている。当調査区と幡多廃寺の微高地とは別の微高地であることが付近の立会調査で確認されているが、近接する一連の微高地であることはまちがいなく、当調査区でも古墳時代から弥生時代に遡る集落が存在することが予想されていた。

調査の結果、鎌倉・室町時代、奈良・平安時代、古墳時代後期、弥生時代中・後期の集落跡が検出され、各期に属する遺構・遺物は多く、当地の中核的集落が微視的には間欠的ながらも継続して営まれていたことが確認され、さらに各期の集落形態の変化もとらえることができた。

調査の概要 検出された遺構面は4面である。鎌倉・室町時代では多数の柱穴と井戸や墓が検出された。柱穴の大きさは全体に小さく、建物の方向性に規則性は見出せない。遺物も特に青磁や白磁といった高級陶器が目立つというわけでもない。おそらく一般的な集落であったと考えられる。

奈良・平安時代では比較的しっかりととした方形に近い柱穴で、棟方向も真北方向、あるいは東西方向に合わせた建物群が検出された。柱穴から出土した土器をもとに、より細かく遺構の変遷を見てみると、8世紀中葉から後半、9世紀初頭から9世紀中葉、9世紀後半から10世紀の3小期に分けられ、それぞれ3棟ほどの掘立柱建物で構成されている。また、出土している遺物をみると、なかに畿内産土師器が含まれているものの9割以上が須恵器であり、この比率からは当遺跡が一般的な集落であることを示している。また、墨書き土器や帶金具などの遺物も出土していない。鎌倉・室町時代の集落と異なるのは、奈良・平安時代



第1図 調査位置図



第2図 奈良・平安時代



第3図 古墳時代後期

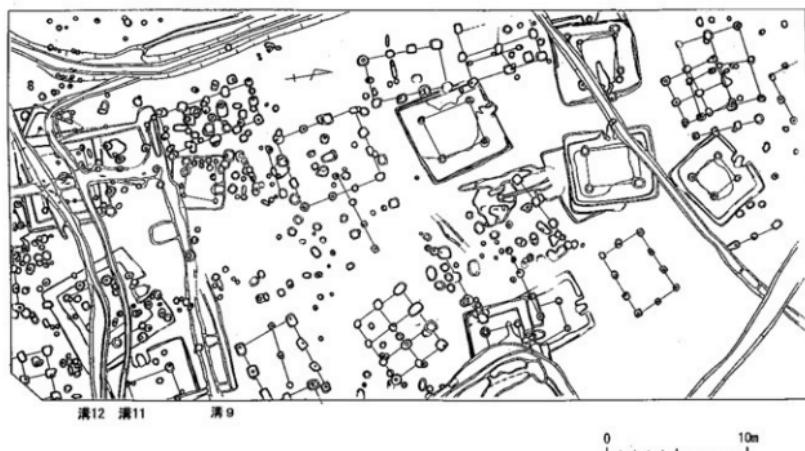


第4図 弥生時代中・後期

の遺構面が官衙であったというよりも、集落の景観自体に差があったと理解する方が妥当ではないかと思わせる資料である。

古墳時代後期ではさらに2小期に分けられる。6世紀後半と7世紀前半である。前者は竪穴住居のみで構成される集落であるが、いくつかの竪穴住居が切り合って群を形成しており、明確な指標物はないものの屋敷地のような一定の範囲が設定されていたようである。後者は掘立柱建物で構成される集落で溝によって区画されており、建物も棟方向を合わせるなど規則性が認められる。両小期の間で集落景観が著しく変化したといえる。また、遺物についてもフイゴの羽口や鉄滓が出土し、製鉄作業を行っていることがうかがわれ、さらに製塙土器も出土している。また、区画中央では馬を一頭埋めていたり、さらに周囲の区画溝や竪穴住居からは多くの馬の骨が出土した。

弥生時代では中期中葉から後期初頭で、中心は中期である。調査区中央には幅1~2mの溝が切り合いながらも数条掘削されており、その両側に竪穴住居と土壌が広がっている。溝は周辺の水田開発に用いられたと考えられ、微高地の比較的高いところを掘削していることから、より安定した水田を獲得できたことを示している。中期中葉の土器や晩期中葉の土器も若干出土しており、付近に同期の遺構が存在している可能性は高い。



第5図 古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）遺構面

鹿田本町遺跡

所在地 岡山市鹿田本町313-5・313-6
調査原因 マンション新築工事
時代 中世

調査期間 020119~020125
調査面積 570m²
担当者 神谷正義

調査の経過 当該地は、県立岡山病院に隣接している。現岡山病院敷地では、昭和63(1988)年10月に確認調査を実施しており中世土器の包含層・微高地及び低位部を確認している。さらに平成11(1999)年6月には当該地の南隣接地が、県立岡山病院の建て替え予定地となり確認調査が実施され、東半部は微高地、西半部は低位部との結果を得ている。それら確認調査の成果から判断すると、当該地の大半は低位部にあたり、一部微高地に相当するかと思われた。したがって、マンション建築に当たり事前に確認調査を実施するようお願いした。株式会社ベンチャー代表取締役から「埋蔵文化財等の存在状況確認調査について(依頼)(平成13年4月26日付)が提出され、岡市教委文第76号(平成13年4月26日付)で試掘確認調査が必要の旨の回答をした。それを受け平成13(2001)年5月14日に試掘確認調査が実施された。試掘坑は3ヶ所設定実施した結果、西半は湿地ないし河道堆積土層であり、東端は粗砂土ながら安定した状況を示していることが確認された。当該地が遺跡の端部であると判断され、事前の発掘調査が必要と通知した。

調査の概要 敷地には12階建てのマンションが建築予定であり、基礎掘削を浅くすることは困難とのことから、掘削深度まで全面発掘調査をすることになった。

調査は、平成14(2002)年1月19日から24日まで掘削工事と並行して実施された。その結果、微高地端部から、河道に沿った若干の浅い溝と河道の肩部を検出した。溝は幅10cm、深さ11cm程、埋土は灰褐色粘質微砂であった。河は微高地から徐々に傾斜して深くなっている、岸辺には灰黒色土の層が見られる。有機質土が堆積する環境下にあったのであろう。

試掘時の土層断面は第6図のようになっているが、今回の調査では試掘で予想された以上の成果は得られなかった。微高地基盤を形成する粗砂層は掘削深度G.L.-3mまで及び、非常に脆弱である。基盤土と言しながら河道埋積土の一部で、干上がってからさほど時間を経ていない段階で遺構が形成されたのであろう。



第1図 調査位置図



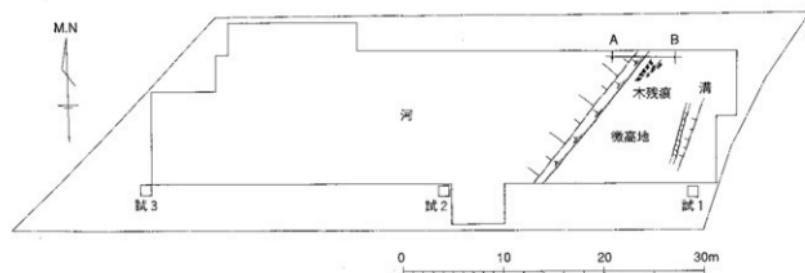
第2図 調査位置図



第3図 調査地全景（東から）



第4図 調査地全景（北から）
岡山病院建設予定地を見る



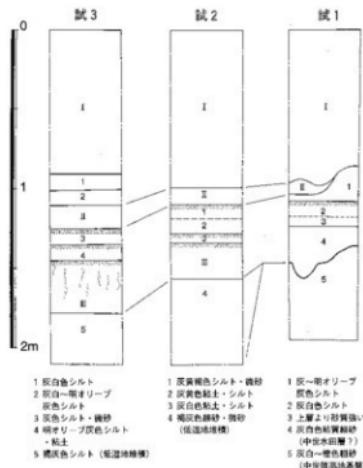
第5図 遺構配置図 (1/400)

この粗砂層上から中世土器が検出されている。また、河道埋積土からは、中世陶器及び須恵器片も検出された。

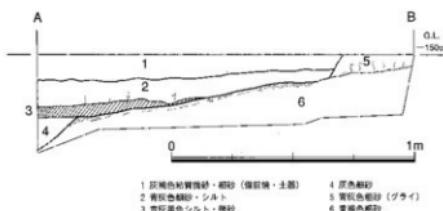
出土物の概要 微高地上と河埋土から若干の土器類が出土した。工事と並行する調査の制約もあるが、遺構に伴う出土は無く、摩耗が顕著である。また量も多くない。1～4は微高地部分、5～8は河道部分から出土した。1～3は小皿、4は杯の底部?、5は鍋の口縁部、6は東播系須恵器の捏ね鉢。内部が使用されていて滑らかになっている。7は備前焼壺頭部。8は須恵器大甕の胴部である。

微高地からの出土物はおおよそ12～13世紀代、河道からの出土物も須恵器片を混入するが、大きな開きはない。

まとめ 当該地は調査の結果、かつてのかわべりに当たり、微高地を含めて河川の土砂堆積（粗砂土の厚い堆積）により形成された地である。人の確実な生活痕跡は、中世（特に12・13世紀代）になってから認められるにすぎない。とはいっても調査区の大半は河筋にあたり、微高地は東端のごく一部である。この河筋（厚い粗砂土の堆積）は、東北方向にあたる市水道局敷地内及び大学町へと続くことが確認されていて、その沖積の過程において、河の流れは変化し、あるいは河幅が狭まつたりするなど、ある意味不安定な土地を周辺に形成し



第6図 土層断面図 (1/30)

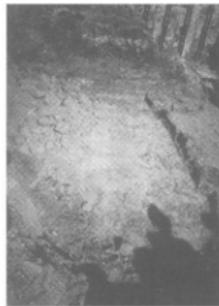


第7図 土層断面図 (1/20)

ていたであろう。しかし、水捌けが進むと、粗砂土でもあり適度に乾燥する好地になったと思われる。

今回護岸施設などの痕跡は認められなかったが、河の肩部に、木材の痕跡が集中して見られる場所があった。河岸改修等の作事が行われていたのであろうか。その結果、河岸の安定化が促進され、沖積地はさらに拡大されていったことであろう。不安定な土地柄での作事行為が、居住地あるいは耕地拡大の契機となる。岡大医学部構内の鹿田遺跡を例示するまでもなく、この地の東100m（古松園）あるいは西北の石門別神社周辺では、12・13世紀代の遺跡ののる微高地が認められている。河の縁辺に形成された中世集落の存在が認められるのである。当該地の調査をとおして、中世集落のはずれにおいて、微高地の拡大を求める未だ不安定な土地であるこの地にも進出しようとした、人間の努力の一端を覗き見ることができた。

- 文献** 金田善敬「県立岡山病院建て替えに伴う確認調査」
 『岡山県埋蔵文化財報告30』岡山県教育委員会2000.12
 宇垣匡雅「鹿田遺跡確認調査」
 『岡山県埋蔵文化財報告19』岡山県教育委員会1989.3



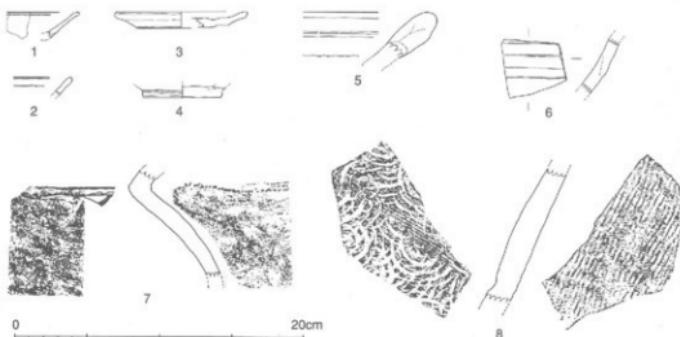
第8図 溝検出状況



第9図 河一微高地境

番号	地層	形態	鉢上	鉢底	底底	備考
1	小層	外面焼ナメ、内面焼ナメ	痕跡较少（器身・漆器色斑）	7SVR7/3 一品2SVR7/6	良好	
2	小層	外面焼ナメ、内面焼ナメ	痕跡较少、1mm大少粒あり	10VRE7/2	普通	
3	小層	剥離物のため不明	赤褐色较多	10VRE8/2、表面10VRE8/6	良好	
4	中層	洗面ヘナナメ	痕跡较少	10VRE8/1	良好	
5	鉢	偏い燒ナメ	1~3mm次の砂粒多く、ざらざら感有り	7SVR8/6、一品10VRE8/2	良好	口唇部剥けている
6	鉢	外面焼ナメ、内ナメ	麻石・石英少、黒粒多々	7SPB6/1	良好	内面良く使用され平滑
7	鉢	外面焼ナメ、偏い燒ナメ、内 鉢江紙、燒ヘナナメ	麻石・石英、焼色较少	外面7SPB6/1、内面7SPB6/1、 内面7SPB6/0	良好	内面糊状
8	大甕	外面平行条纹ナメ、内面燒 (cm)の音階変化、燒ナメ	石英細粒多、麻石少、黒粒若干	外面SPH8/1、SPH7/0、 内面SPH6/1	良好	很密着

出土物観察表



第10図 出土遺物（1/3）

備中高松城水攻め築堤跡

所在地 岡山市立田

調査原因 公園建設

時代 戦国時代

調査期間 010517～010615

調査面積 60m²

担当者 高橋伸二

遺跡の概要 備中高松城水攻め築堤跡は天正10年(1582)羽柴秀吉によって備中高松城攻略のため築かれたものである。明治時代の鉄道工事で築堤盛土の大半が運び去られてとされるが、1997年の調査では築堤の基底部において杭列や俵痕跡等を確認するとともに、大半は失われていたものの盛土の状況も一部が明らかになった。

また、当該地付近は高松城周辺に流入する水の唯一の抜口にあたっており、ここを封鎖すれば最も効率良く城を水没させることができたものと考えられる。

調査の概要 前回の調査は公園用地の東半部を対象としたものの、公園化するにあたってさらに西側の状況を確認する必要に迫られた。そこで今回の調査は公園用地の西端部の状況を把握することを目的として実施された。

まず、水田耕土を除去した段階で江戸期の粘土採掘穴と考えられる土坑を検出した。調査区南端では多量の砂の堆積がみられ、この砂の堆積も周辺の状況から江戸期のものと考えられる。この砂層を除去して現れた傾斜が、江戸期に変更を受けているものの築堤の南端部と推察される。

さらに、現地表下約1m前後で、築堤構築当時の地表面と考えられる粘土層の上面で編物を検出した。この編物は筵状のもので、軟弱な粘土面に盛土する際の根固めとして使用されたものと考えられる。

まとめ 前回の調査では築堤の基底部で大量の俵痕跡が検出されたが、今回の調査では、築堤の基底部に編物を敷き、その上に盛土されているという状況を確認することができた。このことは、地形や地質によって築堤の施工方法が一様でなかったことも考えられ、今後の他地点での調査成果に期待したい。



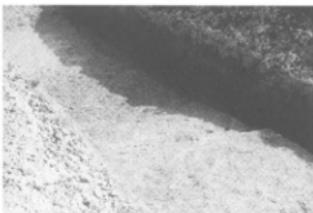
第1図 調査位置図



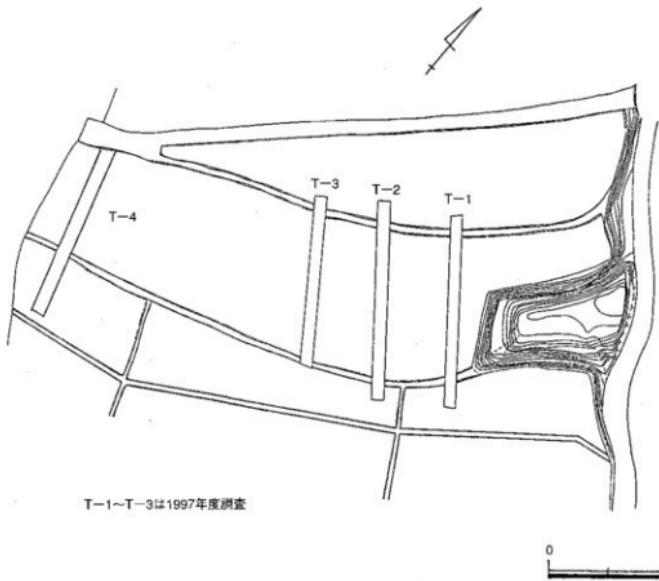
第2図 調査区全景



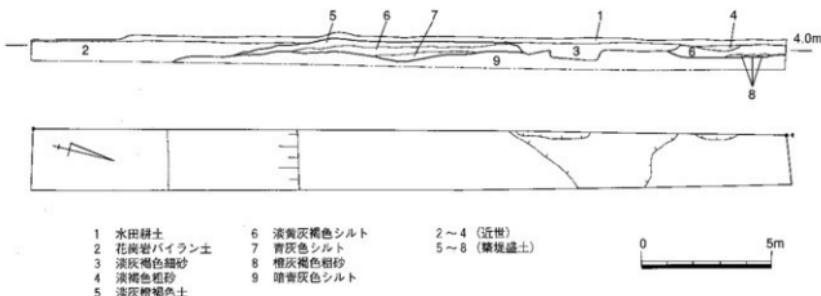
第3図 編物



第4図 編物検出状況



第5図 トレーンチ配置図 (1/800)



第6図 T-4 平面・断面図

吉備津杉尾西・奥田遺跡

所在地 岡山市吉備津 8-1、227-3ほか
調査原因 配水池・ポンプ場建設
時代 後期旧石器時代～中世

調査期間 010709～020329
調査面積 3,243m²、232m²
担当者 柴田英樹・安川 満

遺跡の概要 両遺跡は足守川東岸域にあって、吉備津神社の北西1.3kmに位置する。吉備津杉尾西遺跡は、1582年の備中高松城水攻めの際に羽柴秀吉の弟秀長が陣をおいていたとされている鼓山の中腹から南にのびる尾根上に所在する。現在は山林であるが、かつては柿が栽培されており、その際に造成が行われている。調査前の段階では古墳1基が確認されており、確認調査でも土器片や鉄釘が出土している。一方、吉備津奥田遺跡はこの南の平野部に位置し、現在は水田が広がっている。遺跡の様相を示す地形は明瞭ではないが、試掘調査の結果で3面の遺構面が存在することが明らかとなった。

調査の概要 吉備津杉尾西遺跡の調査は、配水池建設地内の3,243m²を対象に実施した。その結果、後期旧石器時代～中世の遺構・遺物が確認された。なお、山城に関わるような明確な遺構は確認されなかった。

後期旧石器～弥生時代では、遺構などは認められなかつたが、各種石器や剥片、チップなどが出土した。後期旧石器には、ナイフ形石器5点・尖頭器5点・角錐状石器2点・搔器1点・削器4点・石核9点など、縄文時代の石器には、石鎚48点・石匙6点・削器1点・楔形石器7点などがある。使用石材は安山岩が多いが、搔器は玉髓、石鍶1点は黒曜石、楔形石器1点は水晶である。弥生時代では、土器片数点と石鎚6点・石斧1点が確認されたに過ぎない。

古墳時代では、5世紀後半あるいは時期不明の古墳4基と7世紀の古墳1基が確認された。1号墳は、尾根上に位置する1辺約11mの方墳で、埋葬施設はほとんど残存していないかった。2号墳は、谷寄りに位置する径4～5mの円墳である。埋葬施設は、内法3.1×0.65mの小規模な横穴式石室で、人骨片や須恵器などが出土地している。3号墳は、1辺3mと推定される方墳である。埋葬施設は礫層で、内法1.2×0.3mを測る。4号墳も1辺3m程度の小規模な方墳であるが、埋葬施設は内法0.69×0.31mの箱式石棺である。



第1図 調査位置図



第2図 出土石器



第3図 5号墳埋葬施設（北から）

ある。周溝法面には、赤色顔料を入れた有蓋高杯が置かれていた。5号墳は1辺8m前後の方墳で、埋葬施設は内法1.85×0.43mの箱式石棺である。棺内副葬品は鉄刀1振、蓋石上には鉄剣1本が供献されていた。

奈良時代以降では、土壙墓2基、土器蓋土壙墓1基、土器棺墓3基、土壙13基などが検出された。この内土壙墓1基は奈良時代のもので、火葬墓の調査例が多い時期であることから注目される遺構である。また、1号墳周溝上層や2号墳をはじめとして、土器、鉄釘、刀子片、方形座付足金具、

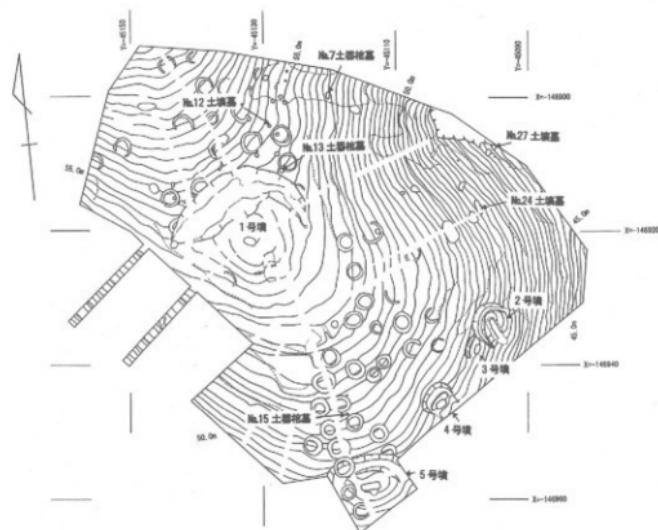
石鎧（巡方1、丸鞆1）、鉄滓などが各所で出土している。遺構は明らかにならなかったが、複数の木棺墓の存在や、あるいは葬送に関わる何らかの行為が行われた可能性が高い。また、この場所が官人の関係する葬送地であったことも推測される。



第4図 2号横穴式石室
遺物出土状況（南東から）



第5図 No.15土器棺墓（南から）

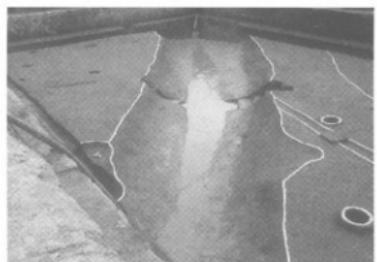


第6図 吉備津杉尾西遺跡遺構配置図（1/700）

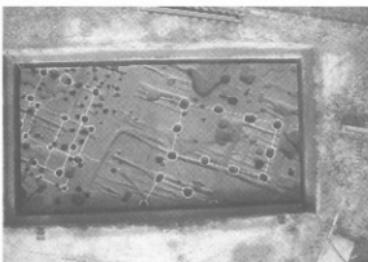
吉備津奥田遺跡の調査は、加圧ポンプ設置予定位置の232m^fを対象に実施した。調査の結果、弥生時代から中世に及ぶ遺構・遺物が確認された。

弥生時代では、前期～中期と思われる土壙や溝、幅4.5m、深さ1.3mの後期の大溝などが検出された。このうち土壙1基は中期のもので、井戸の可能性がある。遺構密度は高くないが、土器の他にも、扁平片刃石斧などの石器も出土しており、前期～中期の微高地縁辺部と思われる。周囲で確認されている当該期の集落はまだ少なく、今後未周知の遺跡が確認される可能性がある。後期については、水田層も確認している。

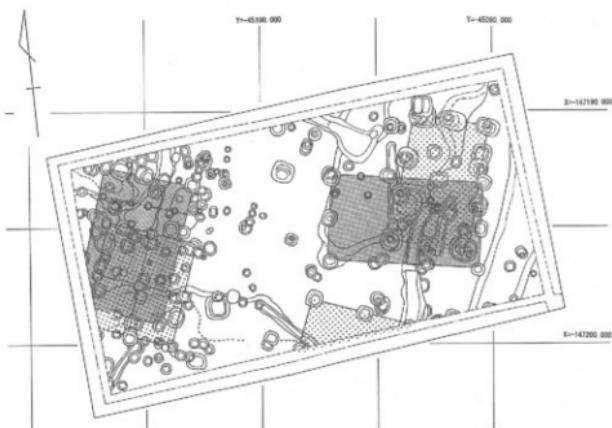
奈良時代以降では、掘立柱建物5棟や多数の柱穴、窪と思われる溝群などが確認された。溝群は集落の廃絶後に掘削され、中世についても同様な方向の耕作痕が検出された。建物4棟の方向については溝群に近いが、1棟はそれらとやや異なる点が注意される。出土する土器は奈良時代から平安時代前半と思われるものが多く、緑釉陶器片も見られる。また、滑石素材やフイゴの羽口、鉛滓、漆を入れた土器などが出土しており、この集落内でさまざまな生産活動が行われていたことが推測される。



第7図 吉備津奥田遺跡
弥生時代全景（北西から）



第8図 吉備津奥田遺跡
古代全景（空中撮影）



第9図 吉備津奥田遺跡奈良～平安遺構配置図（1/200）

伝賀陽氏館跡

所在地 岡山市川入字城回り

調査原因 特別養護老人ホーム建設

時代 中世

調査期間 010917~010918

調査面積 40m²

担当者 扇崎 由・柴田英樹

遺跡の概要 伝賀陽氏館跡は、吉備津神社の神官を務めた在地豪族賀陽氏の居館跡とされ、県指定史跡である。堀に囲まれた55×64mの方形土壇は、周囲の水田から約2mの高さがあり、一部には土塁が残る。南・西の周濠内に老人ホーム建設が計画されたため、確認調査を行った。

調査の概要 西堀の中央やや南角よりに幅2mのトレーニングを設定した。T1(北壁)では、現地表下50cmで館跡の付け根に相当すると思われる基盤層とその落ちを確認した。館跡の裾部は本来西に約4m広かったと見られる。この基盤層の落ちはやや丸みをもってL字型に曲がって西の周濠内へ続き、端部を木杭で補強している。館地へ周濠を渡るための陸橋状の施設の北辺と考えられるが、T2では同様の基盤層の落ちは検出されなかった。これにより陸橋状の施設はこのトレーニングのやや南に存在し、周濠の西コーナーをわたるものと思われる。周濠の底は現地表下1m80cmと判明した。

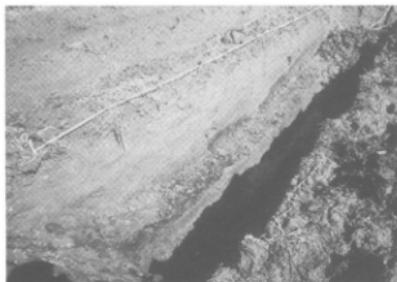
周濠及び陸橋状施設は現地表下90cmまで埋まると、アシなどの草が繁茂していたようだ。その後洪水で埋まり、明確な時期は不明だがおそらく江戸時代頃に客土により水田化されて現代にいたったと思われる。この水田化の時期に伝賀陽氏館跡の裾部が削平されたようだ。



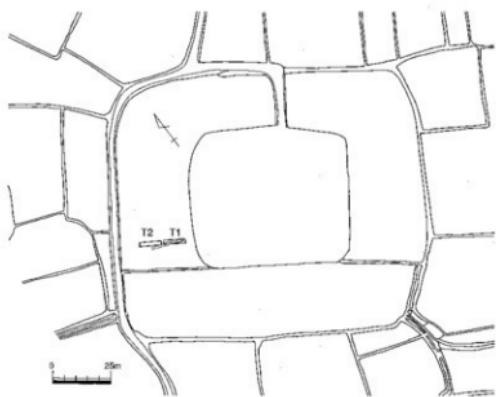
第2図 調査地遠景（北西から）



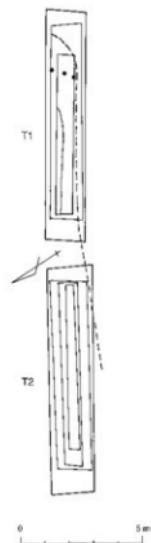
第1図 調査位置図



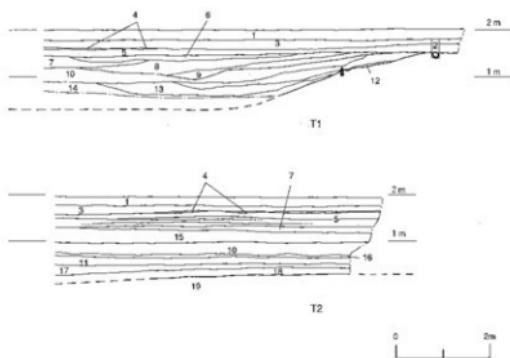
第3図 T1北壁



第4図 トレンチ配置図 (1/2,000)



第5図 トレンチ平面図 (1/200)



第6図 トレンチ北壁土層図 (1/100)

- 1 暗灰色粘質微砂
- 2 灰色粗砂
- 3 淡灰褐色微砂
- 4 黑色微砂
- 5 暗茶色微砂
- 6 淡灰色粘質微砂
- 7 暗灰褐色粘質微砂
- 8 暗灰色粘質微砂
- 9 暗灰色微砂
- 10 暗茶褐色微砂
- 11 灰褐色微砂～粗砂
- 12 灰白色細砂～粗砂
- 13 淡灰色細砂
- 14 暗灰色粘質微砂
- 15 暗灰色粘質微砂
- 16 黑色粘質微砂
- 17 暗灰茶色粘質微砂
- 18 暗灰色粘質微砂
- 19 明灰綠色粘質微砂

千足古墳（造山古墳附第五古墳）

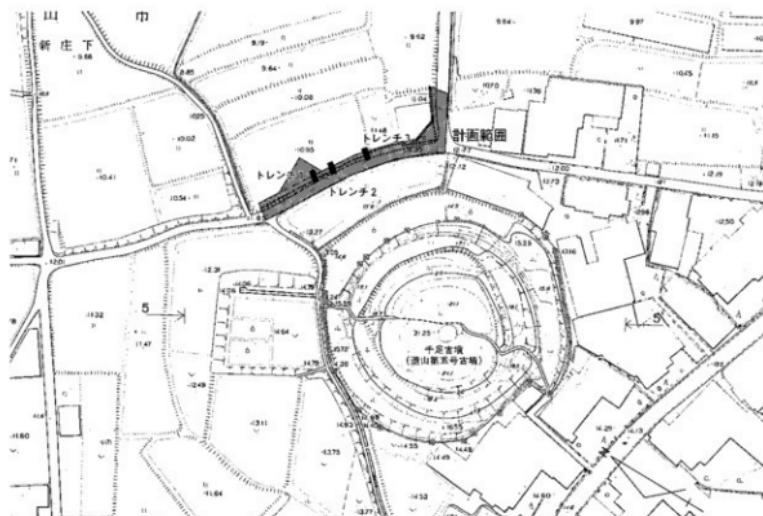
所在地 岡山市千足
調査原因 市道拡幅整備
時代 古墳時代

調査期間 010912
調査面積 約 8 m²
担当者 安川 満

遺跡の概要 千足古墳は造山古墳の陪塚といわれる 6 基の古墳の内の 1 基で、古式の横穴式石室とその内部に設置された石障に刻まれた直弧文から装饰古墳としてよく知られている。墳長 75m 程のいわゆる「帆立貝形前方後円墳」とみられ、周囲には墳丘を取り巻く一段高い盾形の区画があり、「周庭帯」といわれている。

調査の概要 調査は市道新庄下 54 号線の拡幅整備に伴う試掘確認調柶である。市道新庄下 54 号線は千足古墳北側の「周庭帯」縁辺に沿う農道である。この部分は、周囲の状況から開墾等により古墳本来の遺構を残す可能性はきわめて低いと見られたが、市道自体が「周庭帯」の存在や古墳全体の景観に大きく影響しており、また、古墳および「周庭帯」の外側ではあるが、一部に擁壁の設置にかかる掘削を伴うため、擁壁設置部分を中心に試掘確認調柶を実施した。

調柶は擁壁設置部分を中心にトレーナー 3 本を掘削した。土層の状況や残存遺構の有無などを検討した結果、いずれのトレーナーにおいても道路造成土、耕作土、ゴミ穴埋土直下は地山と見られる花崗岩風化土となっており、古墳に伴うと見られる遺構の検出および遺物の出土は見られなかった。地山と見られる花崗岩風化土層には農道造成土下の平坦面から斜面にかけてと、斜面から水田耕土下の平坦面にかけての 2箇所に傾斜変換点が見られるが、周囲の状況からも直接的には開墾や農道造成に伴うものと考えられる。



第1図 千足古墳とトレーナーの位置 (1/1,000)

III 埋蔵文化財保護に関する協議と調整

埋蔵文化財センターが運営機能し始めて2年が経過し、調査整理作業は一時期のよそよそしさからはだいぶ落ち着いてきた。

一方、埋蔵文化財の協議は、例年通り、市役所本庁文化財課において、開発行為事前指導時及び建築確認申請時に行っている。

2001（平成13）年度は、建築確認申請時に45件の相談があった。また「埋蔵文化財等の存在状況確認調査」の申請を受けた件数が22件。そのうち遺跡状況の回答のみが3件、現地踏査5件、試掘14件に対応した。試掘調査は、民間事業11件、公共事業3件であり、包蔵地を確認し、遺跡と認定されたのは9件であった。

それら試掘や協議を経て、岡山市教育委員会が取り扱った埋蔵文化財発掘の届出・通知等（直管分を含む）の一覧は以下のとおりである。一覧は文化財課受付日において年度の区分けをしている。

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第58条の2）	6件
埋蔵文化財発掘調査の届出（法第57条）	4件
埋蔵文化財発掘の届出（法第57条の2）	28件
埋蔵文化財発掘の通知（法第57条の3）	33件
指定史跡等の現状変更許可申請（法第80条）	21件
遺跡発見の届出・通知（法第57条の5・6）	0件
埋蔵文化財試掘・確認調査報告（法第57条）	1件
埋蔵文化財試掘・確認調査報告（法第58条の2）	14件（内訳 試掘6件 確認8件）
出土文化財発見通知（法第59条）	7件
出土文化財認定（法第61条）	4件

このほか、市域内での発掘調査として以下の遺跡がある。詳細は「岡山県埋蔵文化財報告32」（岡山県教育委員会2002年）に紹介されている。

- 鹿田遺跡（県立岡山病院建て替えに伴う発掘調査）
- 南方遺跡（新総合福祉ボランティア会館（仮称）建設に伴う確認調査）
- 百間川原尾島遺跡、百間川今谷遺跡、百間川沢田遺跡（旭川放水路改修に伴う発掘調査）
- 川入遺跡（一般県道吉備津松島線改築に伴う発掘調査）
- 津島遺跡（遺跡内容確認調査）
- 大供東浦遺跡（岡山労働基準監督所庁舎新設に伴う確認調査）
- 岡山城二の丸跡（岡山城内堀石垣確認調査）
- 防衛庁三軒屋公務員宿舎新設に伴う試掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第58条の2）

(6件)

遺跡名称	種類と時代	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査期間	調査主作者	住所	報告日付
備中高松城水攻め堀尾跡	塹堀跡 中世	岡山市立田797	公園造成	60	20010517～ 20010630	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20010625
吉備津移尾西（配水場）遺跡・吉備津奥田（ポンプ場）遺跡	敷布地・集落跡 古墳 跡・城壁跡 弥生・古墳	配水場：岡山市 吉備津移尾西 8-1ほか ポンプ：吉備津 字奥田227-3	配水場・ ポンプ場	3,200 700	20010709～ 20020331	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20010621
赤田東遺跡	集落跡 弥生・古墳	岡山市赤田180-1	学校	1,520.25	20010618～ 20020331	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20010626
亀山城西の丸跡	城郭跡 中世	岡山市沼1193-3他	浮田ふれあいプラザ	35	20010917～ 20011001	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20011002
湯追蟹田遺跡	集落跡 平安・中世	岡山市湯追字蟹田224-3	機密電話 基地局	133	20011214～ 20011218	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20011218
鹿田本町遺跡	集落跡・水田 中世	岡山市鹿田本町 313-5、313-6	集合住宅	570	20020119～ 20020125	岡山市教育委員会 教育長	岡山市大供一丁目1-1	20020129

埋蔵文化財発掘調査の届出（法第57条）

(4件)

遺跡名称	種類と時代	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査期間	届出者	住所	指導事項	受付
津島岡大遺跡	集落跡 縄文～近世	岡山市津島中一丁目1-1	岡山大学 津島本部 棟新宮工事共同溝	370	20010716～ 20010914	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20010613
津島岡大遺跡	集落跡 縄文～近世	岡山市津島中一丁目1-1	記念館	2,800	20020104～ 20020628	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	慎重に発 掘開発	20011130
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田山町二丁目5-1	岡山大学 鹿田総合 教育研究 棟新宮工事	3,027	20020328～ 20030228	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20020227
津島岡大遺跡	集落跡 縄文～近世	岡山市津島中三丁目1-1	岡山大学 津島総合 研究棟新 宮工事	6,990	20020328～ 20030228	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20020227

埋蔵文化財発掘の届出（法第57条の2）

(28件)

遺跡名称	種類と時代	所在地	工事目的	面積(m ²)	工事期間	届出者	住所	指導事項	受付日
駅前町遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳	岡山市駅前町二丁目3-101、 102	宿泊施設	1,018.55	20010501～ 20020430	岡山県市町村 議員共済組合 理事長	岡山市駅前 町二丁目3-31	工事立会	20010402
南方遺跡	水田 弥生	岡山市泰選町一丁目1-13	集合住宅	6,095.32	200106中日 ～200211末	株式会社マリモ代表取締役	広島市西区 庚午北一丁目17-23	工事立会	20010416
天瀬遺跡	集落跡・水田 弥生	岡山市東中央町1-15地先～天瀬2-5地先	ガス管取 り替え	120.59	20010510～ 20010731	岡山ガス株式 会社取締役社 長	岡山市桜橋 二丁目1-1	工事立会	20010423
津島遺跡	敷布地 弥生	岡山市学南町一 丁目2-7地先	電線埋設	136.9	20010617～ 20010831	中国電力株式 会社岡山営業 所長	岡山市青江 二丁目6-51	工事立会	20010426

遺跡名称	種類と時代	所在地	工事目的	面積(mf)	工事期間	届出者	住所	指導事項	受付日
高松沼田遺跡	散布地 弥生	岡山市高松原古才字籠東478-1、479-1、480-1、481-11、481-10、481-13、484-9、484-5の一部、487-1、486、489-3、489-4の一部	宅地造成	5,169.80	20010601～20011201	代表取締役	岡山市吉備津1403-3	工事立会(ただし、道路部分は市道編入なら発掘調査)	20010501
番町遺跡	集落跡・水田 弥生	岡山市番町一丁目26-1	法律事務所	382.62	20010730～20010815	羽原真二	岡山市浜377-3	工事立会	20010625
備前国府関連遺跡 奈良～中世	散布地・官衙跡	岡山市祇園字岡長1-4	個人住宅	129.59	20010723～20011221	山本 郁史	岡山市中井330-1	工事立会	20010703
津島遺跡	水田 弥生・古墳	岡山市学南町二丁目196-14	個人住宅	104.34	20010727～20010802	柴山 勝史	岡山市いづみ町4-2-3	工事立会	20010706
雄町遺跡	散布地 弥生	岡山市鷹雄町25-35-25-39毫先	ガス管新設	22.36	20010910～20010920	岡山ガス株式会社取締役社長	岡山市桜橋二丁目1-1	工事立会	20010709
岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市丸の内二丁目11-116、117、118	個人住宅	446.61	20011101～200208末	大木榮一	岡山市丸の内二丁目5-17	工事立会	20010711
南方遺跡	集落跡 弥生	岡山市番町一丁目1-1地先	配電線地中化	4.7	20010820～20020331	中国電力株式会社・岡山営業所長	岡山市青江二丁目6-51	慎重工事	20010724
湯追蟹田遺跡	集落跡 平安・中世	岡山市湯追字蟹田224-3	通信設備関係	133	20010001～20020131	株式会社エヌ・ティ・ティ・イコモ中国取締役部長	広島市中区大手町二丁目11-10	発掘調査	20010726
南方遺跡	集落跡 弥生～中世	岡山市四箇町75-24	運動場ネット支柱	33.55	20010920～20011031	学校法人 吉備学園 理事長	岡山市津島京町二丁目10-1	工事立会	20010904
津島遺跡	集落跡・水田 弥生～中世	岡山市学南町二丁目789-1、788-7、789-6	集合住宅	227	20011010～20020325	片山 理	岡山市学南町二丁目12-17号	工事立会	20010917
上伊福遺跡	集落跡 弥生・古墳	岡山市伊福町二丁目313-2、313-4	個人住宅	256.47	20011121～20011130	草野文男	岡山市伊福町二丁目16-53	工事立会	20010920
原尾島遺跡	集落跡・水田 弥生	岡山市原尾島83-7	個人住宅	180.03	20011217～20020420	玉井 豊	岡山市原尾島3-8-55	工事立会	20011010
米田遺跡	集落跡 弥生～中世	岡山市米田字當摩300の一部	個人住宅	94.52	20011115～20020331	寺地孝行	岡山市国府市場59-1	工事立会	20011022
鹿本町遺跡	集落跡・水田 中世	岡山市鹿本町313-5、313-6	マンショ	1,343.94	20011130～20011231	秋元会社ベンチャーリー代表取締役	岡山市赤田94-1	発掘調査	20011108
津島遺跡	集落跡 弥生～中世	岡山市学南町二丁目857-5他	集合住宅	1,586.17	20020106～20020731	三井不動産株式会社広島支店長	広島市中区中町9-12	駐車場ピット部分は発掘調査は工事立会	20011121
上伊福遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳	岡山市伊福町一丁目1-13	更衣室	143.23	20020110～20020331	社会福祉法人恩賜財團済生会支部岡山県済生会支部担当理事	岡山市伊福町一丁目17-18	工事立会	20011203
天神町遺跡（新規遺跡名）	散布地 弥生・古墳	岡山市天神町10-20	事務所	100.03	20020201～20020809	株式会社日本経済新聞社代表取締役社長	東京都千代田区人手町一丁目9-5	慎重工事	20011225
鹿田遺跡	集落跡 中世	岡山市東古松一丁目20-1	事務所	260.52	20020215～20020531	西日本電信電話株式会社岡山支店長	岡山市中山下2-1-90	工事立会	20020116
絵図遺跡	集落跡 弥生・古墳	岡山市清心町353-2外8筆	集合住宅	2,879.48	20020606～20030331	株式会社中山工務店代表取締役	岡山市浜二丁目1-3	工事立会	20020117
法万寺遺跡	集落跡・水田 弥生～中世	岡山市中郷川字法万寺393-1	店舗	781.02	20020210～200203月末	禪田昌幸	岡山市妹尾259-1	工事立会	20020122

遺跡名	種類と時代	所在地	工事目的	面積(m ²)	工事期間	届出者	住所	指導事項	受付日
岡山城二の丸跡	城館跡 近世	岡山市表町二丁目3-124ほか	自走式駐車場	1,245.41	20020220~20020531	宇野不動産株式会社 取締役社長	岡山市表町二丁目3-18	工事立会	20020124
津島岡大遺跡	集落跡 縦文~近世	岡山市津島中一丁目1-1	記念館	2,800	20020701~20030430	岡山大学創立五十周年記念事業後援会会長	岡山市古京町二丁目2-21 六高ビル館内	発掘調査	20020201
金甲山遺跡	祭祀遺跡 奈良・平安	岡山市都字甲之峰2515-7	通信設備関係	22	20040201~200408末	山陽放送株式会社 代表取締役社長	岡山市丸の内二丁目1-3	工事立会	20020313
岡山城二の丸跡	城館跡 近世	岡山市丸の内一丁目11-115、11-118	診療所	139.53	20020510~20020920	菊池武久	岡山市東川原230-5	工事立会	20020329

埋蔵文化財発掘の通知（法第57条の3）

(33件)

遺跡名	種類と時代	所在地	工事目的	面積(m ²)	工事期間	届出者	住所	指導事項	受付日
北方長田遺跡	集落跡 弥生・中世	岡山市北万四丁目4-13地先~四丁目5-3地先	配水管布設	58.77	200105中旬~200108末	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20010418
天瀬遺跡	集落跡・水田 弥生	岡山市東中央町1-1地先~天瀬3-9地先	配水管布設	256.7	20010510~20010731	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20010420
岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市丸の内二丁目6-101	建物解体	1,256	20010701~20010815	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20010510
津島岡大遺跡	集落跡 縦文~近世	岡山市津島中一丁目1-1	津島本郷様新宮工事共用構部分	370	20010921~20011214	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20010613
赤田東遺跡	集落跡・水田 弥生・中世	岡山市赤田143-2~高屋116-7地先	下水道(人孔設置)	66	200110下旬~200206下旬	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20010719
高松沼田遺跡	集落跡 弥生	岡山市高松原古才268地先~275	道路	340	20010830~20011031	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20010727
千足古墳	古墳 古墳	岡山市新庄下1294-1地先~同1295-1地先	道路	108	20010830~20011130	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	確認調査	20010727
龜山城西の丸跡	城館跡 中世	岡山市沼1193-3他	介護予防事業に係る施設	250	20011001~20020228	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	発掘調査	20010821
天瀬遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳・ 近世	岡山市表町二丁目20-24、天瀬1-3地先	取付管布設替工	85	20010917~20020330	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	慎重工事	20010823
川入遺跡・納所遺跡	散布地 弥生・中世	岡山市納所144-1地先~岡山市川入411-1地先	配水管布設	744	200110下旬~20020731	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20010827
川入遺跡	散布地 弥生・中世	岡山市中瀬川393-7地先~岡山市中瀬川395-1地先	配水管布設	28.9	200109下旬~200112末	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20010828
龜山城西の丸跡	城館跡 中世	岡山市沼1193-3他	パリアアフリ一事業に係る施設	約40	20011001~20020228	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20010904
吉備津杉尾西遺跡	散布地 古墳・平安・ 中世	岡山市吉備津200-1地先	水道管布設	130	200111上旬~20020731	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20010921
吉備津田瀬後遺跡	集落跡 奈良~中世	岡山市吉備津1444	夜間照明柱	11.25	20011014~20011014	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20010925
鹿田遺跡	集落跡 縦文~中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	病院	150	20011020~20011130	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	工事立会(国大雅文センター職員)	20011009
鹿田遺跡	集落跡 縦文~中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	病院	4,000	20010121~20010330	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	注意	20011009

遺跡名称	種類と時代	所在地	工事目的	面積(m ²)	工事期間	届出者	住所	指導事項	受付日
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	工事用電柱	50	20011031～ 20011031	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	工事立会(岡大雅文センター職員)	20011009
岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市丸の内一丁目7-6地先～丸の内一丁目14-10地先	配水管布設	208.45	20011112～ 20020228	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20011030
備中高松城水攻め 祭堤跡	築堤跡 中世	岡山市立田797他 6筆	公園造成	3,940	20020104～ 20021228	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011107
津島遺跡	散布地・水田 弥生・古墳	岡山市学南町一丁目5-22～学南町一丁目17-15地先	下水道	1,082.35	200111下旬～ 20020329	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011115
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	上下水道	60	20011201～ 20020228	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	工事立会	20011126
津島遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳	岡山市学南町二丁目8-31～学南町三丁目8-18地先	下水道管埋設	354	200202上旬～ 20021225	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011213
津島遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳	岡山市学南町二丁目4-23～学南町二丁目5-32地先	下水道管埋設	234	200303上旬～ 20021225	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011213
津島遺跡	集落跡・水田 弥生・古墳	岡山市津島新野一丁目1-26～津島南二丁目2-2地先	下水道管埋設	275	200203上旬～ 20021225	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011213
津島本町遺跡	散布地 弥生・古墳	岡山市津島本町4-21～津島本町8-1地先	下水道管埋設	207	200203上旬～ 20021225	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011213
津島本町遺跡	散布地・水田 弥生・古墳	岡山市津島福居二丁目16-20～津島福居二丁目18-8地先	下水道管埋設	473	200202上旬～ 20021225	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011213
津島遺跡	散布地 弥生・古墳	岡山市津島東四丁目14-26～津島東四丁目15-45地先	下水道管埋設	371.5	200201中旬～ 20020228	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20011219
備中高松城水攻め 祭堤跡	築堤跡 中世	岡山市立田587地先～立田844地先まで	配水管布設	255	200202上旬～ 200203下旬	岡山市水道事業管理者 水道局長	岡山市鹿田町二丁目1-1	工事立会	20011227
津島江道遺跡	集落跡・水田 弥生～平安	岡山市学南町三丁目12-28～津島東一丁目4-1地先	配管埋設・人孔設置	158.5	200204中旬～ 20030331	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	工事立会	20020208
津島岡大遺跡	集落跡 縄文～近世	岡山市津島中三丁目1-1	津島総合研究棟	6,990	20021101～ 20040130	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20020227
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	鹿田総合教育研究棟	3,027	20021001～ 0031226	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	発掘調査	20020227
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	ガス・上下水道・自転車置場移設、樹木移植	2,100	20020308～ 20020430	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1	工事立会(岡大雅文センター職員)	20020306
鹿田遺跡	集落跡 縄文～中世	岡山市鹿田町二丁目5-1	基幹整備共同溝	2,330	20020318～ 20020329	岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1		20020314

現状変更許可申請（法第80条）

(21件)

名称	種類等	現状変更場所	変更目的	変更期間	申請者	住所	処理内容	受付日
岡山城跡	史跡 近世	岡山市丸の内二丁目3-1	「岡山城たきぎ狂言」第10回	20010927～ 20010929	山陽放送株式会社 営業局長	岡山市丸の内二丁目1-3	許可	20010525
岡山後楽園及び史跡岡山城跡	特別名勝 近世	岡山市後楽園1-5	照明燈建替え、地下埋設管設置	許可の日～ 20011231	岡山県知事	岡山市内山下二丁目4-6	進達	20010607
岡山藩主池田家墓所附津田永忠墓	史跡 近世	岡山市円山1083他	曹源寺参道松樹1本が枯死	許可の日～ 200106末	宗教法人曹源寺 代表役員	岡山市円山1069	許可	20010612
岡山城跡	史跡 近世	岡山市丸の内二丁目3-1	電気通信設備維持(電話柱建替え1本)	許可の日～ 20020228 (一日)	西日本電信電話株式会社 岡山支店長	岡山市中山下2-1-90	許可	20010703
岡山城跡	史跡 近世	岡山市丸の内2-3-1	「城下町納涼夜話」	20010803～ 0010820	山陽新聞社 事業局長	岡山市柳町二丁目1-23	許可	20010710
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	吉井川(岡山市河本町先堀越塚下流、岡山市百枝月地先福中)	河川水辺の国勢調査	許可の日～ 20011231	国土交通省中國地方整備局 岡山河川工事事務所長	岡山市鹿田町2-4-36	許可	20010710
岡山城跡	史跡 近世	岡山市丸の内二丁目5-901	通路仮設、仮桟橋仮設・撤去	20010803～ 0010820	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20010716
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	百賀川・岡山市祇園用水	環境調査	許可の日～ 20011231	岡山県知事	岡山市内山下二丁目4-6	許可	20010802
岡山藩主池田家墓所附津田永忠墓	史跡 近世	岡山市円山1083外	道路路肩石積復旧	許可の日～ 20010930	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20010821
岡山城跡	史跡 近世	岡山市丸の内二丁目3-901外	菊花大会	20011010～ 20011124	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20010910
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	岡山市祇園地内	農林水産省補助事業農村振興総合整備事業(地域環境)祇園地区の実施	許可の日～ 20020331	岡山県岡山地方振興局長	岡山市弓之町6-1	許可	20010917
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	岡山市祇園509地先	祇園用水上流部の既存石積護岸改修	許可の日～ 20020331	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20010920
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	岡山市貴田77地先	既存コンクリート護岸の改良	許可の日～ 20020331	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20010928
賞田廃寺跡	史跡 古代	岡山市貴田	史跡整備に伴う発掘調査	20010121～ 20030331	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	進達・許可	20011031
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	岡山市	既存コンクリート護岸改良	許可の日～ 20020331	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20011107
賞田廃寺跡	史跡 古代	岡山市貴田352	溜池(臨田池)護岸の崩壊復旧	許可の日～ 20020329	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1	許可	20011112
岡山後楽園及び史跡岡山城跡	特別名勝 近世	岡山市後楽園1-5	鶴見橋桟橋工事土質ボーリング調査	許可の日～ 20020331	岡山県知事	岡山市内山下二丁目4-6	許可	20011210
岡山後楽園及び史跡岡山城跡	特別名勝 近世	岡山市後楽園1-5	下水道管理設	許可の日～ 20020331	岡山県知事	岡山市内山下二丁目4-6	許可	20011218
賞田廃寺跡	史跡 古代	岡山市貴田487地先ほか	電柱建替え2本	20020201～ 20020228	中国電力株式会社岡山営業所長	岡山市青江二丁目6-51	許可	20020107
津島遺跡	史跡 弥生	岡山市いずみ町		許可の日～ 20030131	岡山県知事	岡山市内山下二丁目4-6	許可	20020215
アユモドキ (地域を定めず)	天然記念物	岡山市祇園617地先	石積護岸老朽化による補修	許可の日～ 20020430	岡山市長	岡山市大供一丁目1-1		20020329

遺物発見通知・埋蔵物鑑査（法第59条・第61条）

(11件)

物件名	発見場所・遺跡名	発見年月日	発見者	土地所有者	現保管場所	処理・日付
弥生土器 120箱、古墳時代土器・須恵器 100箱、古代・中世土器等 20箱、木製品・木質遺物 10箱、石製品 5点、ガラス小玉 1点、鏡類 1面、金環 1点	岡山市中瀬川1437-1号令・中瀬川遺跡	19990614～ 20010330	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20010402 通知
縄文土器 3箱、弥生土器 24箱、古墳時代・中世土器 1箱、石器類 2箱、木製品 5点	岡山市足守2168-1号か・足守深茂遺跡	20001106～ 20010330	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20010405 通知
土器類 6箱、石器類 1箱	岡山市津島東四丁目2525・津島遺跡	20010331	岡山市理大町1-1 学校法人加計学園	岡山市理大町1-1 学校法人加計学園	学校法人加計学園 岡山理科大学	20010411 認定
土器類 62箱、須恵器 32箱、瓦 26箱、 備前焼 1箱、羊形鏡・円面鏡 1箱、 三彩陶器 1箱、泥塔・瓦塔 1箱、 土馬 1箱、ガラス玉 1箱	岡山市国府市場167-1号か・八ヶ岳遺跡	20000626～ 20010502	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20010507 通知
土器・石器 78箱、木器 54箱、 土壤サンプル 15箱	岡山市鹿田町二丁目5-1・鹿田遺跡	20010510	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	20010518 認定
中・近世土器・陶磁器類 1箱	岡山市立797号か・備中高松城水攻め祭 堤跡	20010517～ 20010615	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20010619 通知
近世土器・陶磁器類 1箱	岡山市沼1193-3号か・龜山城西の丸跡	20010917～ 20011001	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20011002 通知
土器(縄文～近世) 21箱、石器(縄文～ 弥生) 1箱、木器(縄文～近世) 15箱、 金銀器(古代～中世) 1箱、 土壤サンプル 21箱	岡山市津島中一丁目1-1・津島岡人遺跡	20010928	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	20011012 認定
土器(古代～近世) 4箱	岡山市鹿田二丁目5-1・鹿田遺跡	20011009	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山市津島中一丁目1-1 岡山大学長	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	20011029 認定
中世土師質土器片・須恵器片 1箱	岡山市吉備津字杉尾西8-1号か・吉備津杉尾西・奥田遺跡	20020119～ 20020125	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市赤田9-4-1 株式会社ベンチャービジネス代表取締役	岡山市埋蔵文化財センター	20020129 通知
旧石器・縄文時代石器 3箱、古墳時代須 恵器 7箱、古墳時代鉄器 2箱、 古代・中世土器等 45箱、古代・中世鉄器 3箱	岡山市吉備津字杉尾西8-1号か・吉備津杉尾西・奥田遺跡	20010618～ 20020328	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市教育委員会教育長	岡山市大供一丁目 1-1 岡山市長	岡山市埋蔵文化財センター	20020329 通知

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

(15件)

種別	遺跡名称	種類と時代	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査期間	報告者	包蔵地	報告日
確認	津島岡大遺跡	集落跡・水田 縄文～近世	岡山市津島中三 丁目1-1	分布状況 実態調査	54	20000803～ 20000804	岡山大学長	有	20010402
試掘	湯迫蟹田遺跡	集落跡 平安・中世	岡山市湯迫字蟹 田244-3	通信基地 局	8	20010418	岡山市教育委 員会教育長	有	20010423
確認	岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市丸の内二 丁目11-116ほか	個人住宅	22	20010517	岡山市教育委 員会教育長	有	20010521
試掘			岡山市中井町二 丁目1580-1	集合住宅	30	20010524	岡山市教育委 員会教育長	無	20010529
試掘			岡山市西祖638- 1	配水場	20	20010620	岡山市教育委 員会教育長	無	20010625
試掘			岡山市鹿田本町 202-35	集合住宅	8	20010731	岡山市教育委 員会教育長	無	20010802
試掘			西山市清心町 276-10、277- 9	診療所	8	20010808	岡山市教育委 員会教育長	無	20010810
確認	千足古墳	古墳 古墳	岡山市新庄下 1294-1地先～ 1295-1地先	道路	8	20010912	岡山市教育委 員会教育長	無	20010918
確認	伝賀隈氏館跡	城館跡 中世	岡山市川入字城 廻り589ほか	特別叢叢 老人ホー ム	40	20010917～ 20010918	岡山市教育委 員会教育長	有	20010925
確認	岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市表町二丁 目3-124ほか	駐車場	4	20011121	岡山市教育委 員会教育長	有	20011127
試掘	津島遺跡	水田 弥生・古墳	岡山市伊島町二 丁目9-40	集合住宅	20	20011212	岡山市教育委 員会教育長	有	20011218
確認	裏田遺跡	水田 中世	岡山市東古松1 -12-25	事務舎	4	20020111	岡山市教育委 員会教育長	有	20020121
確認	岡山城二の丸遺構	城館跡 近世	岡山市表町二丁 目4-109-129	集合住宅	4	20020128	岡山市教育委 員会教育長	無	20020130
確認	裏田遺跡	集落跡 中世	岡山市東古松1 -12-25	事務棟	16	20020131	岡山市教育委 員会教育長	有	20020206
確認	川入遺跡	集落跡 中世	岡山市川入	道路	12	20020212	岡山市教育委 員会教育長	有	20020219

IV 資料紹介と研究ノート

県南における製塙土器・須恵器の胎土分析

白石 純・田嶋正憲

赤田東遺跡から出土した木材の樹種について

藤井裕之

熊沢和夫・敏子さん寄贈の考古資料

神谷正義

政田民俗資料館の収蔵資料1 つる桶

安倉清博

県南における製塩土器・須恵器の胎土分析

白石 純・田嶋正憲

1. はじめに

人と塩のつながりは、生命が誕生した時からの付き合いだから相当に古い歴史を有していることは間違いない。岡山県においては、具体的な製塩の道具としての土器の初現は、児島において弥生時代の中期中葉とされている¹⁾。ここでは、最も製塩活動が盛んであったとされる古墳時代後期の県南におけるいくつかの遺跡から出土した製塩土器の胎土分析を行い、塩の流れと当該期のほかの産業との接点を見出そうと試みるものである²⁾。左古谷遺跡B地点の竪穴住居1出土（6世紀後半～7世紀前半）の製塩土器には、表面の肉眼観察により、粗い砂粒（石英・長石）を含んだものと、黒雲母・角閃石の砂粒を含んだ褐色のものがあり、後者は他地域からの搬入品であると言われている³⁾。そこで、この製塩土器が、どの地域の製塩土器と胎土的に似ているか、また、この遺構からは、甕内面に車輪文タタキが施されている須恵器が出土しており、この甕がどの地域の須恵器生産地試料と類似しているかを理化学的な手法により胎土分析を実施し、生産地推定を行った。分析方法は、蛍光X線分析による成分分析と実体顕微鏡を用いて土器表面の砂粒（岩石・鉱物）の観察を行った。

2. 分析試料

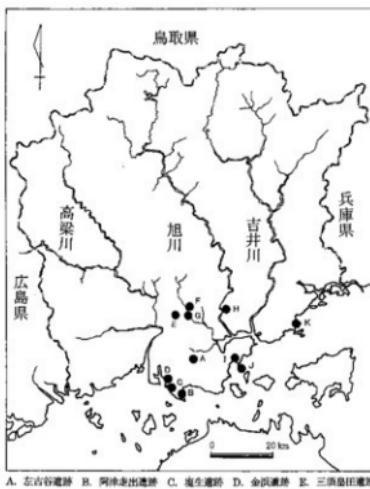
分析した製塩土器は、表2に示した78点である。内訳は、生産地遺跡の分析試料として、倉敷市金浜遺跡（5点）・塩生遺跡（5点）・阿津走出遺跡（10点）、玉野市沖須賀遺跡（5点）・出崎遺跡（5点）、邑久郡牛窓町師楽遺跡（10点）の6遺跡。消費地遺跡として、岡山市津寺遺跡高田調査区（9点）・三須畠田遺跡（6点）・三手遺跡（4点）・原尾島（藤原光町）遺跡（4点）、灘崎町左古谷遺跡（14点）である。図1は、分析した遺跡の位置図である。図2は、岡山市三手遺跡の製塩土器の試料抽出部位図である。他の試料も同様である。

また、須恵器甕分析では生産地試料として、倉敷市寒田窯跡群・山手村末の奥・道金山窯跡、邑久郡牛窓町寒風窯跡群の試料と、消費地として左古谷遺跡（2点）・藤原光町遺跡（3点）である。

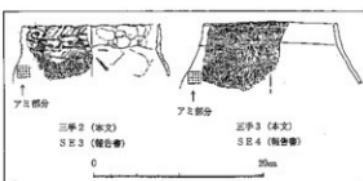
3. 分析結果

[蛍光X線分析]

この分析では、胎土中の成分（元素）量を調べた。胎土に含まれている主な成分は、Si、



第1図 胎土分析実施遺跡位置図



第2図 三手遺跡製塩土器試料抽出部位図

Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, Pの10元素である。このうち、製塙土器の胎土では、Si(珪素)、Ti(チタン)、Al(アルミニウム)、Fe(鉄)、Ca(カルシウム)、K(カリウム)が、また、須恵器の胎土分析では、Si(珪素)、Ti(チタン)、Ca(カルシウム)の各元素に各遺跡で顕著な差異が見られた。そして、これらの元素を用いて、XY散布図を作成し、比較検討した。

◆製塙土器の産地推定

第3図Si-Al散布図と第4図Ca-K散布図では、製塙土器の各生産地遺跡をプロットしてみた。

第3図では、

- 阿津走出 (試料番号 3・5・7・8・10) (阿津走出A類)、金浜、塩生、沖須賀、出崎、師楽
Si量約62%~73%、Al量約16%~24%の領域 (A類)
- 阿津走出 (試料番号 1・2・4・6・9)
Si量約57%~60%、Al量約18%~20%の領域 (B類)

第4図では、

- 阿津走出 (5・7・8・10) (阿津走出A類)、金浜、塩生、沖須賀、出崎 (1・2・3・5)、師楽
Ca量約0.5%~2.0%、K量約1.4%~2.9%の領域 (A類)
- 阿津走出 (1・2・4・6・9)
Ca量約2.0%~3.0%、K量約1.0~1.4%の領域 (阿津走出B類)
- 阿津走出 (3) と出崎 (4)
Ca量約2.4%~2.7%、K量約1.8%~2.2%の領域 (C類)

以上のように各生産地の分布範囲が推定された。

次に、第5図、第6図では各生産地遺跡の分布領域に、消費地遺跡の製塙土器をプロットし比較した。

第5図では、B類の領域に津寺(3)、三手(2)、左古谷(4)の各遺跡の土器が、また、それ以外の土器はA類の領域に分布した。ただ、津寺(1)のみは、両分布域に入らず単独で分布した。

第6図では、B類の領域に津寺(3)、三手(2)の各遺跡の土器が、また、左古谷(4)は、B類の近傍に分布した。また、それ以外の土器はA類の領域に分布した。

◆須恵器壺の産地推定

第7図Si-Al散布図、第8図Ti-Ca散布図では、須恵器壺の各生産地試料の散布図を示している。そして、寒田窯跡、末の奥・道金山窯跡、寒風窯跡の各窯跡とも部分的に重複するところはあるが、ほぼ識別できる。そこで、この窯跡分布領域に左古谷遺跡、藤原光町遺跡出土の壺をプロットすると、左古谷遺跡出土の車輪文タタキを有した壺は寒田窯跡の領域に、また、藤原光町遺跡の壺2点は、寒田と寒風の境界付近に分布した。しかし、藤原光町遺跡の他の壺2点は、どの分布領域にも入らなかつた。

【実体顕微鏡観察】

製塙土器の表面を実体顕微鏡(10~40倍の倍率)により観察し、砂粒(鉱物・岩石)の種類、量を調べた。

◆生産地遺跡の胎土観察

(阿津走出遺跡)

- 0.5mm以下の黒雲母と角閃石を多量に含み、1mm以下の石英、長石も含む (試料番号 1・2・4・6・9) (写真1)。

- 1mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含むもの (3・5・7・8・10) (写真2)。
(金浜遺跡、塩生遺跡)

- 1mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含む (写真3・4)。
(出崎遺跡)

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の黒雲母を少量含む（写真5）。
- （沖須賀遺跡）
- ・他の製塙土器に比べて砂粒が極端に少ないが、0.5mm以下の石英、長石を少量含み、黒雲母もみられる（写真6）。
- （師楽遺跡）
- ・2mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の黒雲母、角閃石を少量含む（写真7・8）。

◆消費地遺跡の胎土観察

（古谷遺跡）

- ・0.5mm以下の黒雲母と角閃石を多量に含み、1mm以下の石英、長石も含む（試料番号14）（写真9）。

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含む（写真10）。

（津寺遺跡高田調査区）

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含む（写真11）。

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の角閃石、黒雲母を多量に含む（写真12）。

（三須畠田遺跡）

- ・2mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含む（試料番号1・2・4・6）。

- ・2mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の火山ガラス、黒雲母を少量含む（試料番号3・5）（写真13）。

（三手遺跡）

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の火山ガラス、黒雲母を少量含む（試料番号1・3・4）（写真14）。

- ・0.5mm以下の黒雲母と角閃石を多量に含み、1mm以下の石英、長石も含む（試料番号2）（写真15）。

（藤原光町遺跡）

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、少量の黒雲母を含む（試料番号1・3・4）（写真16）。

- ・1mm以下の石英、長石を多量に含み、0.5mm以下の火山ガラス、黒雲母を少量含む（試料番号2）。

4.まとめ

以上、螢光X線分析と実体顕微鏡による胎土分析を実施したが、この分析で明らかになったことや今後の課題について述べ、まとめとしたい。

(1) 生産地遺跡の製塙土器は、螢光X線分析と実体顕微鏡による砂粒の鉱物構成観察から、製塙遺跡が立地している地質基盤層を検討したところ、次のように分類された。

a. 阿津走出A類、金浜、塩生、出崎……花崗岩起源の砂粒。

b. 阿津走出B類……閃綠岩起源の砂粒。

c. 沖須賀……花崗岩起源の砂粒ではあるが、砂粒（石英・長石）が非常に少ない。

d. 師楽……花崗岩起源（黒雲母角閃石花崗岩）の砂粒。

また、消費地遺跡の製塙土器では、古谷(4)・津寺(3)・三手(2)の3点が、阿津走出B類に類似し、その他は阿津走出A類、金浜、塩生、出崎に類似していることが推測された。この他に消費地遺跡の砂粒観察で、三須畠田、三手、藤原光町の製塙土器の中には、素地の粘土に0.2mm～0.5mmの火山ガラスが多く含まれているもの(e)があり、各生産地遺跡の製塙土器では観察されない胎土であった。

以上の分析結果から、生産地と消費地遺跡で5つの胎土に分類できることが、この分析で明らかになった。なお、今回の製塙土器の分析では、生産地、分析試料とも限られたものであったが、各生産地により、識別できる可能性が出てきた。今後の試料の蓄積を行い再検討する必要がある。表1は、遺

記号	遺跡名	胎土の種類				
		a	b	c	d	e
A	左古谷遺跡	○	○			
B	阿津走出遺跡	○	○			
C	塩生遺跡	○				
D	金浜遺跡	○				
E	三須畠田遺跡					○
F	三手遺跡		○			○
G	津寺遺跡(高田調査区)		○			
H	原尾島遺跡					○
I	沖須賀遺跡		○			
J	出崎遺跡	○				
K	師楽遺跡				○	

記号は、第1回に対応する。

表1 胎土分類表

このように、須恵器窯跡試料が限られているが、岡山県南部でも寒田窯跡を含めた同地域周辺の窯跡よりもたらされた須恵器と推定される。

この胎土分析を実施するにあたり、以下の機関から試料の提供を頂いた。末筆ではありますが記して感謝致します。

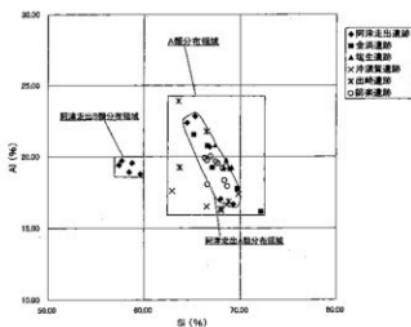
岡山県古代吉備文化財センター、岡山市埋蔵文化財センター、倉敷埋蔵文化財センター、玉野市教育委員会、牛窓町教育委員会、灘崎町教育委員会。

注

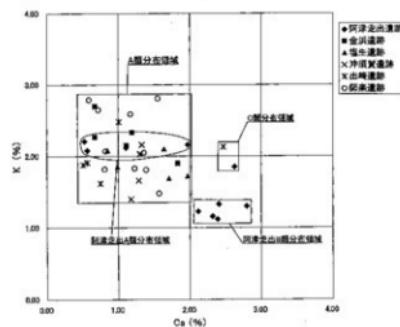
- (1) 近藤義郎1984『土器製塙の研究』青木書店
- (2) 今回の分析は、灘崎町歴史文化資料館の整備に伴う、展示パネルの充実を主目的として関係機関から試料の提供を受けて行ったものであった。その成果の一部は、既に資料館にて公開している。しかし、展示スペースには限りがあるため、本来ならば、本町にてこの分析結果の全データを公刊したかったのであるが、諸般の事情により完全に実現不可能となった。この分析結果は、今後の研究を行う上で、重要と判断されたため、岡山市教育委員会の御好意で掲載をさせていただいたものである。したがって、文章中では、灘崎町もしくは、左古谷遺跡を主とした表記になっているところもあるのでご了承願いたい。
- (3) 田嶋正憲ほか200「左古谷遺跡」岡山県灘崎町教育委員会
- (4) 尾上元規1993「古墳時代鉄錫の地域性－長頸式錫出現以降の西日本を中心にして」『考古学研究』第40巻第1号 考古学研究会
- 尾上元規1999「副葬品からみた喜兵衛島古墳群の性格」「喜兵衛島－師楽式土器製塙遺跡群の研究－」喜兵衛島刊行会
- (5) 田嶋正憲2003「古墳時代後期の生産と流通－小地域間交易の一例－」『仮称：近藤喬一先生退官記念論文集』同刊行会（刊行予定）では、今回概要報告した分をやや詳しく検討してあるので参照されたい。

跡ごとの胎土分類表である。限られた試料からではあるが、児島西部の塙が備中南部へ齋された傾向が窺える。つまり、その背景には畿内を指向する政治的な関与の匂いが強いように思われる。それは当該期において鉄生産が盛んになることと無関係ではなく、鉄錫の地域性を詳細に検討した尾上氏の見解^④からも肯定されえよう。一方、備前での動向は、師楽遺跡が独自性を持つと指摘できるにとどまる。ただ、備中の消費地遺跡でも類例が増せば、より具体的に示されよう。ここでは、予察のため概要に留めておく^⑤。

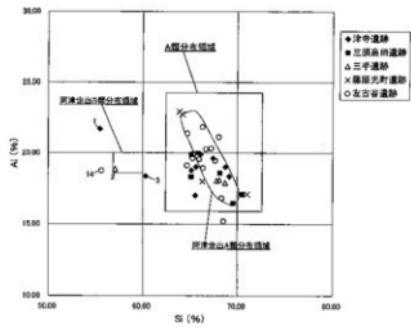
(2) 内面に車輪文が施された甕（須恵器）の生産地推定では、寒田、末の奥、寒風の各窯跡と比較検討を行ったところ、蛍光X線分析結果では、左古谷遺跡の甕は寒田に推定された。



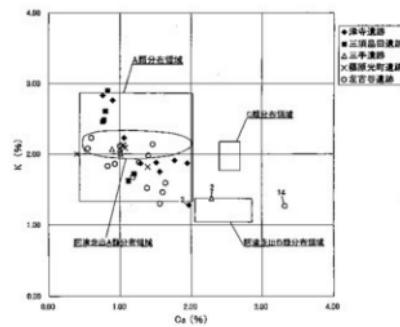
第3図 生産地遺跡製塙土器（Si-Al分布図）



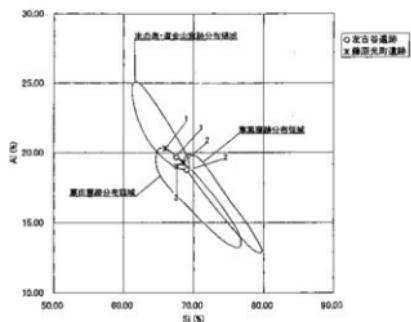
第4図 生産地遺跡製塙土器（Ca-K散布図）



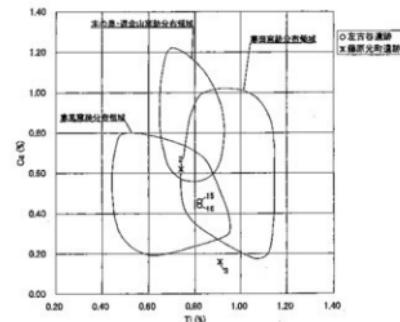
第5図 消費地遺跡製塙土器（Si-Al散布図）



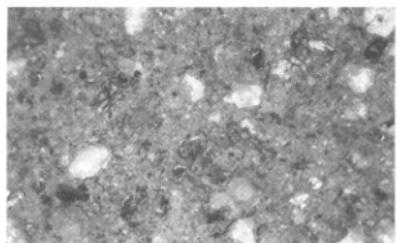
第6図 消費地遺跡製塙土器（Ca-K散布図）



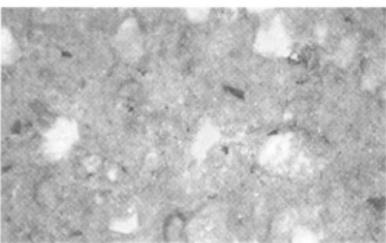
第7図 窯（須恵器）の生産地推定（Si-Al散布図）



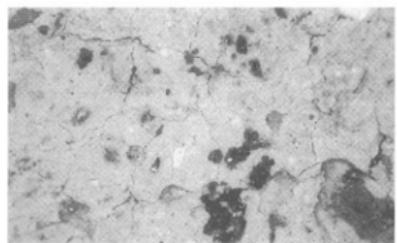
第8図 窯（須恵器）の生産地推定（Ti-Ca散布図）



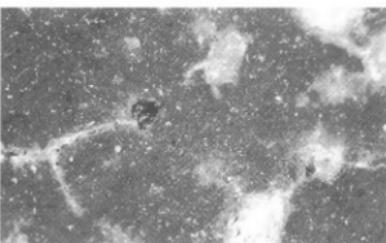
1. 阿津走出遺跡 9



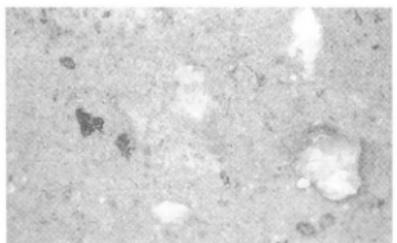
2. 阿津走出遺跡 8



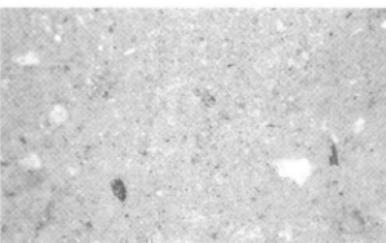
3. 金浜遺跡 1



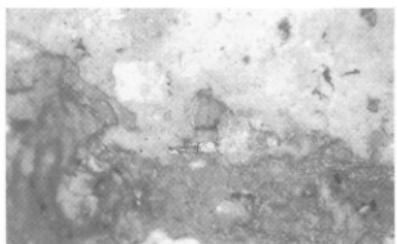
4. 塩生遺跡 3



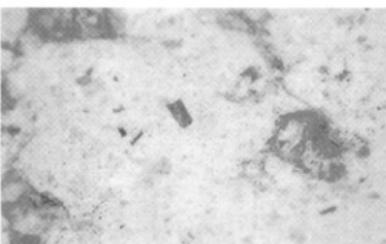
5. 出崎遺跡 5



6. 沖須賀遺跡 1

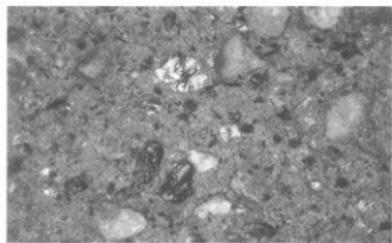


7. 師楽遺跡 9

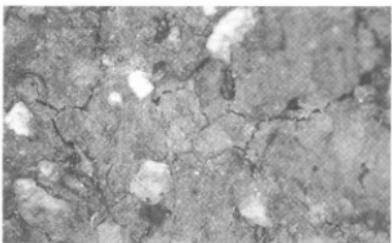


8. 師楽遺跡 3

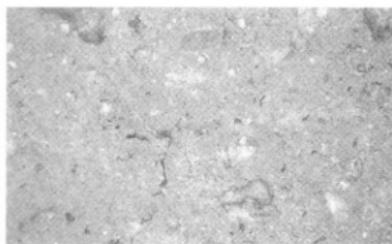
図版 1



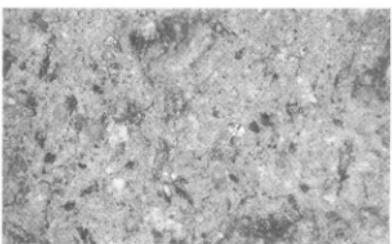
9. 左谷遺跡14



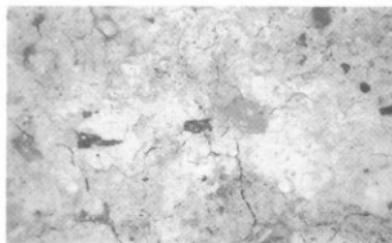
10. 左谷遺跡2



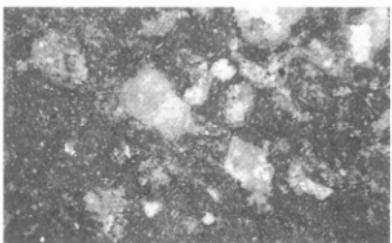
11. 津寺遺跡5



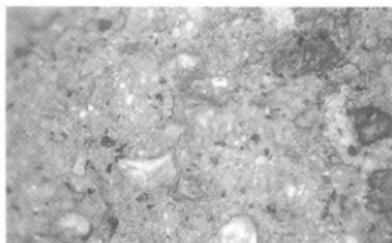
12. 津寺遺跡3



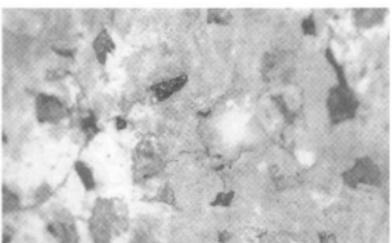
13. 三須畠田遺跡3



14. 三手遺跡4



15. 三手遺跡2



16. 藤原光町遺跡4

図版2

赤田東遺跡から出土した木材の樹種について

京都大学大学院 人間・環境学研究科
博士後期課程 藤井 裕之

2001年度に実施された赤田東遺跡の発掘調査では、古墳時代および古代の掘立柱建物跡を構成する柱穴の一部に、木材が残存しているものがみられた。そのような柱穴から取り上げられた木材はすべて柱根と解釈され、点数にして4点が取り上げられた。

ここでは、上記の木材の樹種同定結果を報告する。

・同定の手法

樹種同定は、木材組織切片の解剖学的特徴を生物顕微鏡下で観察する手法で行った。

切片は、木口、柾目、板目の3断面を、安全剃刀の刃を使用し、材から直接手で採取した。採取した切片は、かならずガムクロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水を混合したもの）でスライドガラス上に封入し、永久的なプレパラートとした。

なお、同定に使用したプレパラートは将来、岡山市埋蔵文化財センターで収蔵される予定である。

・結果

表1に示したとおり、針葉樹3樹種（カヤ、コウヤマキ、ヒノキ属）を同定した。

以下、形質と顕微鏡写真を挙げ、その根拠を示す。

カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. (イチイ科カヤ属) 試料No. 1

構成要素は、仮道管、放射柔細胞の2つである。軸方向細胞は見られない。仮道管には、らせん肥厚があり、2本1組で分布する傾向がある。分野壁孔は比較的細かいヒノキ型で、4個程度である。

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc. (コウヤマキ科コウヤマキ属) 試料No. 2

構成要素は、仮道管と放射柔細胞の2つである。軸方向柔細胞は見られない。分野壁孔は窓状。放射柔細胞は2~3細胞高ほどである。

ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. (ヒノキ科) 試料No. 3・4

構成要素は、仮道管、軸方向柔細胞、放射柔細胞の3つである。早材から晩材への移行は比較的ゆるやか。軸方向柔細胞は、木口面で見ると接線方向に並んでいる。劣化が著しいため分野壁孔の形状は不明であるが、その数は2個程度のものが多い。日本産のヒノキ属の樹木にはヒノキとサワラがあるが、分野壁孔の形状を識別できないので、ヒノキ属とするにとどめる。

・若干の考察

カヤ、コウヤマキ、ヒノキは、どれも直立した幹をもつ針葉樹である。また、材の木理は通直で、湿気などに対する耐久性にも優れた性質をもっており、掘立柱建物の柱材には理想的な選択といえよう。島地謙氏、伊東隆夫氏らによる遺跡出土材の全国的な集計結果を上位から見ると、針葉樹で建築の柱材に多く利用されたのはヒノキが圧倒的に多く、次いでコウヤマキ、以下、スギ、モミ、カヤ、ニヨウマツ類、イスマキ等々の順で続いている。とくに、古墳時代から古代にかけての宮殿、官衙など大形建築の柱材には、ヒノキやコウヤマキがよく利用されていた（島地・伊東（編）1987）。ヒノキ

属としたものがヒノキとすれば、今回の結果はこの集計で上位のものと矛盾しない。

岡山県内において、カヤやヒノキは、弥生時代以来の出土品で普通に見られる樹種である。一方、コウヤマキは近畿地方の原始・古代の遺跡から出土する木棺や建築物に多く利用されたが、近畿以外では珍しい存在で、岡山県内の例も非常に少ない（表2）。赤田東遺跡においても、この両者で材の入手方法や利用上の意義などが異なっていた可能性が考えられよう。

本稿作成は、京都大学大学院人間・環境学研究科奈文研講座の松井章先生、光谷拓実先生の指導を受けて行つたものです。また、樹種同定に際して大山幹成氏（奈良文化財研究所・COE特別研究員）にご協力いただきました。皆様にふかく感謝申し上げます。

注

- (1) 樹木の分類、名称については、岡鑑（北村・村田1979）の記載によった。
- (2) 岡山県教育委員会1995「松尾古墳群・斎富古墳群・馬屋遺跡ほか」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告第99集
- (3) 葛原克人1987「秦原廃寺」「絶社市史」考古資料編 pp.336-347
- (4) 岡山県教育委員会2001「下庄・上東遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告第157集
- (5) 近藤義郎1986「都月坂二号弥生墳丘墓」「岡山県史」第18巻 考古資料
- (6) 南方（済生会）遺跡蓮田調査区出土。岡山市教育委員会発掘、未公表資料。

文献

- 北村四郎・村田源1979『原色日本植物図鑑・木本編Ⅱ』保育社
島地謙・伊東隆夫(編) 1987『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣

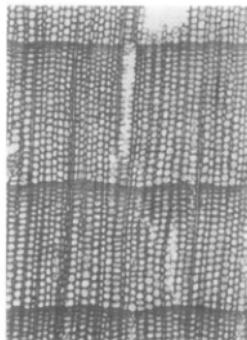
No.	出土柱穴	現存木取り	樹種
1	古墳建物 2 P1010	芯持丸太	カヤ
2	古墳建物 9 P1387	割材（芯去）	コウヤマキ
3	古代建物 6 P849	芯持角材？	ヒノキ属
4	古代建物 9 P1206	割材（芯去）	ヒノキ属

表1 樹種同定結果

遺跡名	種類（数）	時期	同定法
山陽町馬屋遺跡 ^①	井戸枠材（5）	奈良時代	肉眼
慈社市秦原廃寺南門 ^②	壇立柱材（1）	奈良時代	不明
倉敷市下庄・上東遺跡 ^③	部材（1）	弥生後期	顕微鏡
。	加工材（1）	弥生後期	顕微鏡
岡山市都月坂二号墓 ^④	木棺蓋（1）	弥生後期	不明
岡山市南方遺跡 ^⑤	板材（1）	弥生中期	顕微鏡

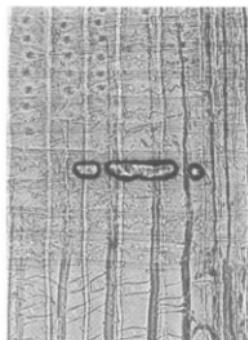
表2 岡山県内のコウヤマキ材出土遺跡（原始・古代）

顕微鏡写真

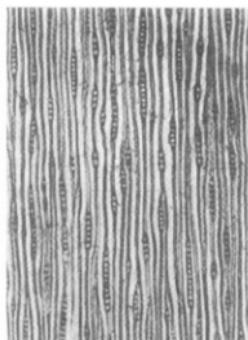


No.1 カヤ

木口面×40



柾目面×200

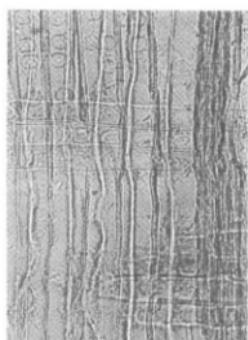


板目面×40



No.2 コウヤマキ

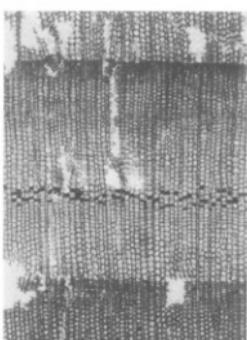
木口面×40



柾目面×200

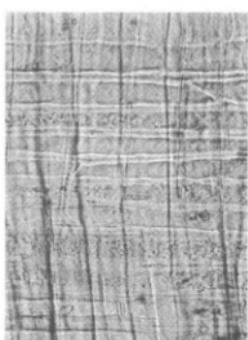


板目面×40



No.4 ヒノキ属

木口面×40



柾目面×200



板目面×100

熊沢和夫・敏子さん寄贈の考古資料

神谷正義

寄贈資料の履歴

1993年2月20日、岡山市北浦にお住まいの熊沢和夫・敏子さんから、山で採集した焼き物があるので寄贈したい旨の連絡をいただいた。さっそく神谷が熊沢さんの家に赴き、焼き物を見せていただき、岡山市文化課で保管したい旨申し入れた。そして、その日のうちに芳田収蔵庫に収納し、資料化を図ることとした。段ボール箱に無造作に詰められた焼き物類は、須恵器を主とした一群と、土師器若干及び石製品であった。須恵器は杯・杯蓋・高杯そして甌などがあり、土師器は高杯・椀などが認められた。寄贈品は多くが破片の状態であったが、大半は接合され個体復元が可能なものが少なくなく、須恵器・土師器としては36点が図化されるに至った。このほかにも、細片のため図化を諦めた破片を含めると、50点は下らない数の個体が認められる。寄贈された資料の一群は後期古墳の副葬品と同一の器種構成を示す内容であった。これら資料が一ヶ所から採集されたものとの説明を受けた神谷は、横穴式石室からの出土品との印象をもち、採集場所を案内していただき、採集時の詳細な様子をお聞きした。

採集地点（第1図-1）は、岡山市児島北浦、旗山から延びる尾根の先端部分に位置し、北浦26番字旗山937、熊沢敏子さんの所有地内のことである。いまから23年～20年まえのこと、松の木を植え替えるのに根回しをしたとき破片が出たとのこと。すなわち、松の木の周りを1mほど、深さ30cmほど掘ったところで焼き物がまとまって出土した。破片が

覗いていた焼き物は掘りあげたが、著しく掘り下げることも広げることもなかった。その時周りに石列などは確認していないことである。確かに、現地踏査によると周辺に花崗岩の露岩は認められるものの、墳丘や明瞭な石室の一部らしい構造物は確認できなかった。しかしこれら資料は、接合する破片の多さから、他所から流出し再堆積した資料と考えるよりは、埋納された場所で採集されたもので、一括資料として捉えても良いと判断している。そのような目でみると、現地には花崗岩平石が斜面途中に流出露呈している個所があり、埋没石室の存在を予想させる状況ではある。



北浦旗山2号墳遠景

(右頂部：北浦旗山古墳 左頂部：北浦土居東方山古墳)



北浦旗山2号墳近景



北浦旗山2号墳平石露出状況



第1図 北浦旗山2号墳と周辺遺跡

地図地名表

- 1.当採集地（北浦旗山2号墳） 2.北浦旗山古墳（地図註1） 3.八幡山古墳（地図註2） 4.八幡大塚3号墳 5.八幡大塚2号
墳（地図註3） 6.八幡大塚1号墳 7.箱崎古墳 8.児島支所上古墳（地図註4） 9.未命名古墳（地図註5） 10.稚荷山古墳
11.石切古墳 12.宮浦東千川古墳（地図註6） 13.尼塚古墳 14.高山北方古墳（地図註7） 15.高山北方古墳 16.北浦土居
東方山頂古墳（地図註8） 17.高山北方古墳（地図註9） 18.寺岡古墳（地図註10） 19.散布地（郡集落内） 20.散布地
(国津神社周辺)

地図註

1. 古墳名は文献註1による、文献註3には前期?、円墳状地形とするが、文献註1には須恵器片採集がある。
2. 文献註3で八幡大塚古墳とする内容は、文献註1の八幡山古墳のそれであり、文献註3の記載は誤りである。
3. 八幡大塚1号墳が、文献註1では北浦大塚、文献註2では郡八幡山大塚古墳である。八幡山の古墳については、文献註3は情報が錯綜しており正確でない。文献註11が詳細に整理されている。ただし、1～3号墳の配置に関しては確認できない。
4. 文獻註1では村役場上古墳、文献註2では児島支所上古墳。文献註3は未命名、しかも地点が東に寄って記されている。
5. 未命名、小円墳、横穴式石室。文献註3で初出の古墳。ただし所在地を修正。
6. 文獻註1で宮浦東千川古墳、文献註2では宮浦千川古墳、文献註3では記載無し。採土工事中に鳥形須恵器が出土とする。
7. 文獻註3では未命名。ただし文献註2・3の高山北方古墳に該当する古墳と判断。14-円墳（径10m、高さ1.5m）、横穴式
石室（全長1.95m以上、玄室巾0.95m）、石室大破。15-円墳（径10m、高さ1.0m）、横穴式石室（全長2.1m以上、玄室巾
0.75m）。
8. 文獻註3では未命名であるが、文献註1の土居東方山頂墳と内容（前期?、円墳状地形（径15～13m）、頂部蓋掘坑あり）
が一致する。古墳名は文献註2を採用。
9. 文獻註1あるいは註2では高山北方古墳として3基報告され、2基は全壇のこと。文献註2では1・2・3号墳と紹介
されているが、残された1基が17に対応すると思われる。間壁氏の御教示によるとそれも今はなしとのこと。すると
14・15は高山北方古墳としているが、文献註3での新規古墳の可能性がある。
10. 文獻註3では記載無し。文献註1・2に記載。

さて既報告の中に、当該地に該当する遺跡を紹介している例はないのであろうか。かつて鎌木義昌・間壁忠彦氏が、「東児島所在の古墳について」(註1)と題して当該地域周辺の遺跡を紹介している。その内容は「岡山市史(古代編)」(註2)や「岡山市埋蔵文化財分布地図」(註3)にも踏襲されており、郡地区周辺の遺跡認識の基礎資料となっている。その中に北浦旗山古墳として、祝部土器(須恵器)が散見される古墳が紹介されており、しかも同じ丘陵上に位置しているように見える。そこでまず、当該資料の採集地点はこの古墳と重複することがないかどうかの確認を間壁氏にご教示いただいた。その結論は、新規遺跡と捉えても良いだろうということである。ちなみにこの北浦旗山古墳は、「岡山市埋蔵文化財分布地図(地名編)」では未命名で、時期は「前期?」としており、鎌木・間壁氏紹介の内容と一致しない箇所がある。第1図地名表で補正しておく。

ここでは、当該地が新規遺跡であり、しかも完全に埋没している横穴式石室古墳の可能性を考慮して、北浦旗山2号墳と命名し、寄贈品資料の紹介をすることとした。

資料の紹介と評価

寄贈していただいた資料は、須恵器、土師器、石器などである。第2・3図に図示可能な遺物を掲げた。図示した遺物は37点。その内訳は、土師器2点、須恵器34点。石器1点である。1・2が土師器、3~36が須恵器、37が石器(石錘)である。

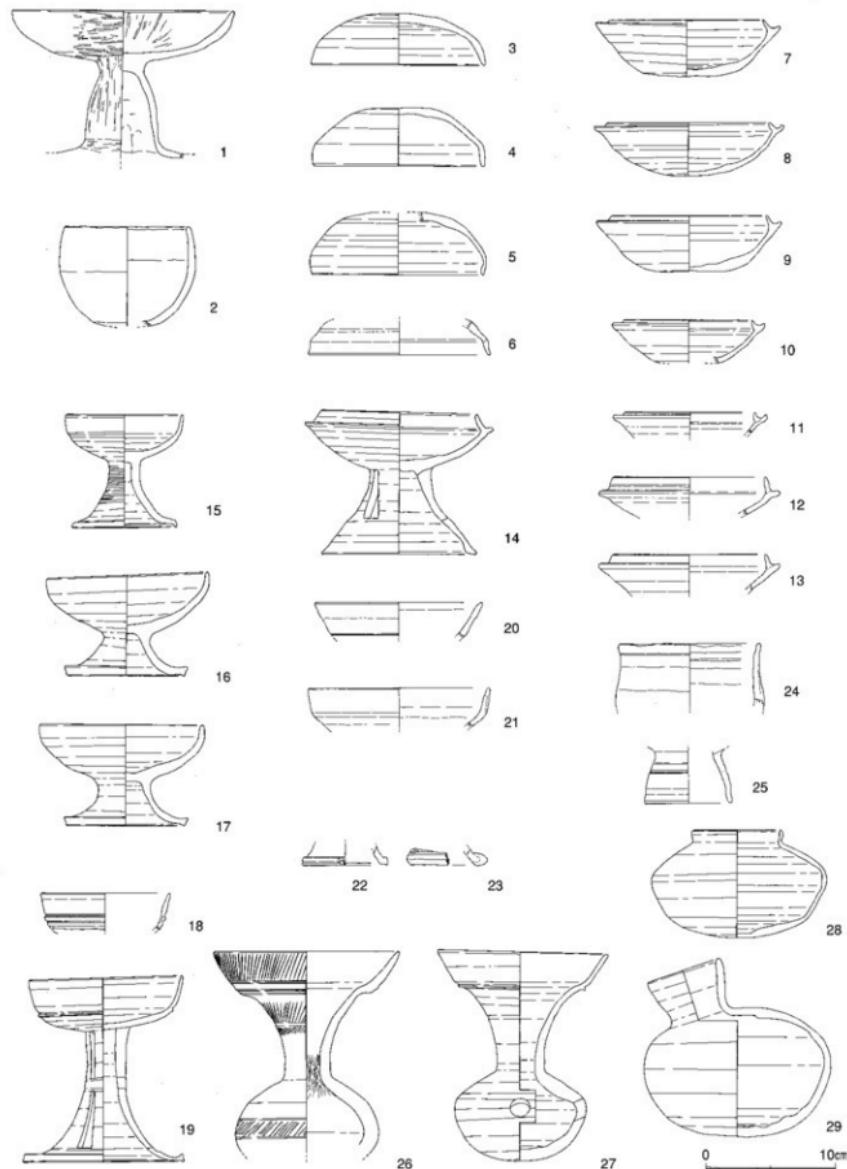
器種及び成形・調整痕の詳細は観察表に譲り、全体の概略を述べると、須恵器杯の形状及び法量から、陶邑編年TK209併行期の須恵器を主体とする一群の資料と思うのである。しかし杯身返りの立ち上がり形状(顯著なタイプとそうでも無いタイプ)と口径(口径13cmと10cm前後)の変異は、TK209を中心としてその前後の型式(TK43・TK217)をも内包する資料が混在し、その暦年代は6世紀末から7世紀前半に比定することができよう(註4)。

その他、器形・器種の判別できない破片、細片のため実測困難な破片等が存在する。個体数では50点を下らないであろうが、図示した内容と大差ない器形・器種構成であることには変わりはない。擬宝珠つまみ等は含まれておらず、その意味でもTK209を主体とする内容と判断できる。ただ、土師器の中に須恵器無頸壺と同様な器形の肩部破片がみとめられる。

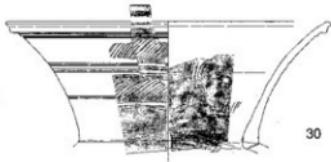
当資料の埋没契機は判然としない。集落遺跡に伴う遺構および祭祀跡、あるいは横穴式石室墳に伴うものであれ、まとまって埋もれていた可能性が高いことは前述した。周辺の状況からすると祭祀跡か埋葬遺構、特に横穴式石室からの出土ではないかと推測している。というのは、この資料の年代観および資料の器種構成(長脚高杯、甕、提瓶など)は、後期古墳に副葬される須恵器供膳具そのものであり、なおかつこの時期の石室は小型化傾向にあり、埋もれないと気づかないこともあるからである。

さらに周辺の横穴式石室墳の調査例を検証すると、石錘を介在して、当資料の性格を類推する参考になる。すなわち箱崎古墳の調査例である。箱崎古墳は、当該地の眼前に所在し、海に突出した丘陵に築造された横穴式石室墳である。この石室内からもやはり石錘が出土している(註5)。同じ北浦の八幡山古墳(註6)及び箱崎古墳からやはり石錘が出土したのである。

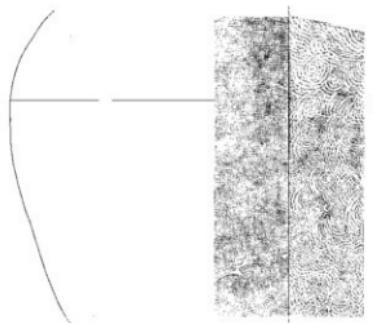
この石錘とは円鏃を打ち欠いて繩掛けを表出させているものであるが、大きさから判断すると漁網の錘であろう。当地は丘陵上と言っても海岸がすぐ迫った場所であり、眼前は従前から櫻木網漁獵等が盛んな地域でもあったから、集落跡からの出土品としてもなんの違和感もないものもある。ただ、経済的基盤を漁撈及び水運においていた有力者であれば、その象徴として、墓の副葬品に漁獵道具を加えることは十分あり得ることである。この件については、かつて鎌木・間壁両氏がすでに指摘し論じている。すなわち八幡山古墳出土品の中に石錘が1点認められることに注目し、また、稻荷山古墳から出土した釣り針の存在とも関わって「そこに専業化された漁業民と、彼等の社会の存在を考慮する余地が存在するように思われる。」(註7)と予察的に指摘したのである。当時はこの石錘を古墳に由来するものと断定は出来ないとしながら、当該地域での特徴の一つとの可能性を指摘したのであった。当地周辺では、傾向として、副葬品の一つとして石錘が埋納されていた可能性が高いと言えるの



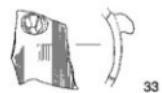
第2図 寄贈資料1（土師器・須恵器）S=1/4



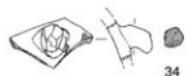
30~32 S = 1/6
33~37 S = 1/4



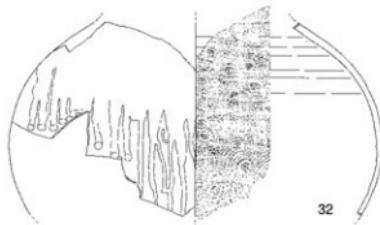
31



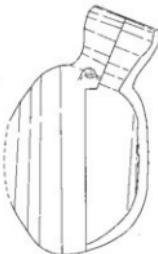
33



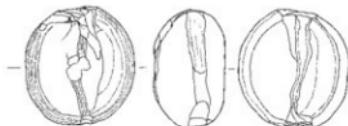
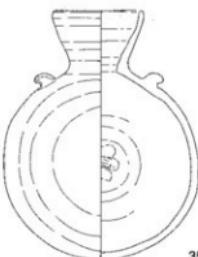
34



32



35



37



36

第3図 寄贈資料2 (須恵器・石錘)

である。

以上のことから、当資料が横穴式石室墳に由来する一括資料と判断することは、採集時の所見、須恵器・土師器の構成及び当地他古墳から出土する石錘の存在などから矛盾無いように思えるのであり、この資料を「北浦旗山2号墳出土資料」として収蔵することとした。

周辺の歴史的環境

当該地は児島半島北東部に位置しており、岡山平野及び備中の中心部とは旭川・足守川を経由して連結されている。しかしながら当地域には農業に必要な可耕地はそれほど広くなく、農業に生活基盤を置いていたとするよりは、古来から商業・漁業に生業の中心を置いていたとみなすことのほうが説得力がある。吉備の穴海が交通路として機能していた時代には、水上交通の結節点として至便の地であったろうし、中近世においては水上交通及び漁業で活況を呈していたことは確かである。

しかし、古墳時代や古代遺跡、特に集落遺跡の所在は明らかでなく遺跡の集約度も低い。郡貝塚（註8）、宮浦沖合の高島（註9）や飽浦細形銅劍出土土地点（註10）は知られていたが、その他の考古学的見解はほとんど知られていない。その後、八幡大塚二号墳や箱崎古墳が調査されたこともあり、当該地における認識の深化が若干みられた。特に八幡大塚二号墳は未盜掘であって、多くの副葬品が残されていた。石室内には組合せ式家形石棺が安置され、無鎖式金製垂飾付耳飾一対と鍍金ある銀製空玉等が出土している（註11）。無鎖式金製垂飾付耳飾の系譜は、朝鮮半島に求めることが出来ると評価されている。その副葬品から、八幡大塚二号墳の被葬者は、中央と密接な関係のある人物であり、おそらく児島屯倉の管理的地位にあったもののが可能性がある（註12）と認識され、逆に当地域の歴史的再評価が求められることとなった。郡地区は、欽明17年「備前児島郡置屯倉」あるいは敏達12年「吉備児島屯倉」の管理施設が設置・經營されていた最有力候補地として、にわかに注目されるようになったのである（註13）。郡の位置は、吉備氏の影響力が色濃く残る備前・備中の中枢平野からはやや距離があり、かつ両者の海上交通要路を押さえた非常に重要な位置を占めているのである。

とはいものの、当該時期の遺跡は後期古墳が数基確認されているだけで希薄であることにかわりはない。当資料は、最近報告された箱崎古墳とならび当該時期の資料を補完するものである。当地区の後期古墳が、自立した經營体を當む者の墓であるとすれば、その被葬者は石錘に象徴される漁獵に經營主体を置いていた者の墓とみなし得るし、そこから漁獵民とその社会の存在が読みとれるであろう。漁獵民と言っても、当然舟を操作する専門集団、あるいは漕ぎ手としても組織されていたであろうから、今回報告した中小横穴式石室墳の被葬者はそれら集団を束ねる有力者であったろう。そして八幡大塚2号墳の被葬者は、それら有力者を統括し君臨する者として存在し、また中央政権との繋がりを保持していた者との評価がなされることであろう。

近年、郡地内の下水道工事が実施された。その配管理設工事の立会によって、郡集落から縄文土器や須恵器・土師器・中世土器等が採集されており、また国津神社下方域からも土器の散布が認められるなど、遺跡の所在が推測されるようになってきた（註14）。加えて、郡の街並みの背後は後背湿地であることも立会で確認されている。砂州上に形成された津・泊及び集落の存在と、その背後の扇状地に形成された集落の存在が浮かんでくるのである。

児島屯倉は、今の岡山市郡の地であるが、役所、倉庫群の所在などはまだ確かめられていないとされる（註15）。しかし郡集落あるいは国津神社周辺（第1図19・20）から、きっと屯倉関連の遺構が確認されるものと期待している。

熊沢和夫・敏子さんから資料の寄贈を受けてから、筆者の怠慢で10年余りが過ぎてしまいました。ここによくやくその責を果たすことが出来ました。報告作成にあたり、寄贈者の熊沢夫妻、資料の水洗・注記・接合をしていただいた難波美佐子・山元尚子、そして資料の実測、トレースをしていただいた木村真紀さんらの手を煩わしました。また、間壁忠彦氏には当該地周辺の遺跡及び評価についてご教示を仰きました。最後になりましたが、お礼申し上げます。

文献註

- 註1 鎌木義昌・間壁忠彦「東児島所在の古墳について」『吉備考古』88・89 1954年
- 註2 『岡山市史（古代編）』 岡山市 1962年
- 註3 『岡山市埋蔵文化財分布地図』・『岡山市埋蔵文化財分布地図（地名表編）』 岡山市教育委員会 1983年
- 註4 田辺昭三『須恵器大成』 角川書店 1981年 その他以下の文献を参照した。
- 亀田修一『山陽（岡山県）』『須恵器集成図録 第5巻（西日本編）』 雄山閣出版 1996年
- 山本悦世『寒風古窯址群（吉備考古学ライブラリイ7）』 吉備人出版 2002年
- 註5 玉木秀幸・白石純・小林博昭「箱崎古墳の発掘調査」『岡山理科大学自然科学研究所研究報告第26号』 岡山理科大学自然科学研究所 2000年
- 註6 註1前掲書
- 註7 註1前掲書 18頁
- 註8 註2前掲書
- 註9 鎌木義昌「備前高島遺跡について」『サヌカイト創刊号』 1968年
- 註10 註2前掲書
- 註11 鎌木義昌・亀田修一「八幡大塚二号墳」『岡山県史（考古資料）』 岡山県 1986年
- 鎌木義昌「口絵解説 岡山市八幡大塚古墳」『考古学研究52』 考古学研究会 1984年
- 註12 『岡山県史（古代II）』 岡山県 1989年 223頁。
- 註13 間壁忠彦・渡子『古代吉備王国の謎』 新人物往来社 1972年 159~164頁
- 註14 下水道工事に伴って、1998年、岡山市教育委員会文化財課が随時立会した成果による。立会では、磨り消し縄文土器片、須恵器及び須恵器蓋台脚部片、吉備系土師質土器碗、瓦器碗や、中世輸入陶磁器類などの遺物が採集されている。郡集落の下に該期の遺跡が埋没していることは明らかである。また、2001年度に岡山県教育委員会が実施した分布調査でも、国津神社周辺に須恵器等が散布していることが確認された。
- 註15 註12文献 139頁

参考 周辺古墳の現状



箱崎古墳

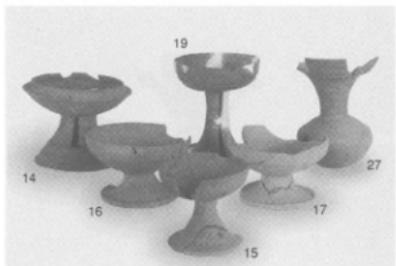


高山北方古墳15

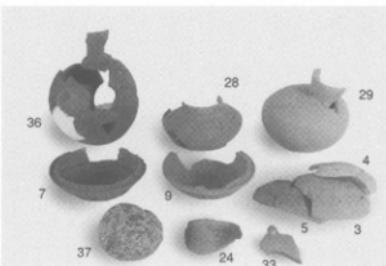
北浦旗山2号墳出土遺物觀察表

番号	器種	量衡 (cm)			形色/特徴等の検査	寸/色調	備考
		LJ深	底径	高さ			
1	高杯 (土師器)	17.8	-	「12.1」	口高い中に茎部の膨らみがなく、斜削式底盤に、深く模様が刻まれて、長い 形が形成される。内面は削り底盤の表面底か。口縁部を直しく、側面部の斜削 部は、内面削除後でラミナリ。外周部へラギガ。口縁部外側部のア 部は、外側ラグナ。内側ラグナ。	○縫合な底石。45mm の良石を若干含 有。内: 黄褐色 (7SY6/4)。一部底端部 のみ: 淡青色 (DOY7/4)。	○杯盤と形態は直接結合して ないが、面上復元。
2	杯 (土師器)	9	-	「7.4」	○ゆるやかに曲面した弧形。底は幅狭く平を形成。○苗頭感強、凹凸強者。 ○外縁: ナマ。内縁: 丸い模、斜めに下す。	○0.5~1mm の脊部多し。ざらざらした細 かな底石。内: 淡青色 (7SY6/1)。 外: 淡青色 (7SY6/1)。	○口縁部に無釉による変色 (7SY6/6)あり。
3	杯蓋 (土師器)	13.3	-	4	○外縁: 上と斜けクリ。下半縁カサ。内面: 線ナマ。縁部上にテナマ。 ○容器や手す。○底成: 丸底。	○縫合な底石。無釉。 内: 帯テナマ底 (2SY7/1)。 外: 帯テナマ底 (2SY7/1)。	○1/2P。 ○蓋は時計回り。
4	杯蓋 (土師器)	13	-	4.5	○外縁: 上と斜けクリ。下半縁ナマ。内面: 深ナマ。縁部上にテナマ。 ○底成: 丸底。	○0.5~1mm の底石多し。石灰。 内: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。 ○蓋は時計回り。
5	杯蓋 (土師器)	13.1	-	4.8	○外縁: 上半ヘラケクリ。下半縁ナマ。内面: 深ナマ。特に口縁部はつまみナ マ。○底成: 良好。蓋底は縮合部である。	○0.6mm の長石。石灰。 内: 淡青色 (NT1)。	○1/4P。 ○蓋とナマの接觸部が ナマされている。
6	杯蓋 (土師器)	-	-	-	○内面: 線ナマ。○底成: 良好。	○0.5~1mm の底石多し。 内: 淡青色 (NT1)。	○1/10P。 ○口縁部が無釉が ナマされている。
7	杯身 (土師器)	32.1	-	4.4	○外縁: 下半ヘラケクリ。上半準ナマ。内面: 深ナマ。中量に脂解えた痕跡 あり。○底成: 良好底。	○0.5~1mm の底石多く。ザザザ感有 る。黑色 (7SY6/1)。褐色 (7SY6/1)。内: 淡青色 (7SY6/1)。	○口縁部に二次接 触部あり。底はハート型。 ○底込みは時計回り。
8	杯身 (土師器)	32.4	-	4.2	○前蓋取りれ。○外縁下半: ヘラケクリ。上半: 深ナマ。内面: 深ナマ。 ○底成: 良好。	○0.6mm の長石。石灰多。内: 淡青 色 (2SY7/2)。内: 淡青色 (2SY7/2)。	○1/2P。 ○口縁部に二次接 触部あり。底はハート型。 ○底込みは時計回り。
9	杯身 (土師器)	11.9	-	4.4	○外縁: 上半準ナマ。下半ケクリ。内面: 深ナマ。○底成: 良好底。	○0.6mm の長石。泥色。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○底の軸身と比べ て、立ち上がりが少しあり している。
10	杯身 (土師器)	9.5	-	3.3	○外縁: 上半準ナマ。下半明度でないケクリ底がみられる。内面: 深ナマ。 ○底成: 良好。	○0.5mm の底石。墨色 (7SY6/1)。○外: 淡青 色 (2SY7/1)。	○1/2P。 ○外縁自然施釉かり 見有り。
11	杯身 (土師器)	11.8	-	-	○外縁: 深ナマ。○底成: 良好。	○縫合。墨色。内: 淡青色 (NT1)。	○1/9P。 ○16と蓋。
12	杯身 (土師器)	14	-	-	○外縁: 上半準ナマ。下半ケクリの底筋みられる。内面: 深ナマ。受け唇は複 数ヶ所。○底成: 良好。	○底石。墨色底 (7SY6/1)。 内: 淡青色 (NT1)。	○1/18P。 ○他の軸身と比べ て、立ち上がりが少しあり している。
13	舟形 (土師器)	14	-	-	○内外蓋: 深ナマ。○底成: 良好。	○舟石。墨色底 (7SY6/1)。内: 淡 青色 (NT1)。	○1/16P。 ○他の軸身と比べ て、立ち上がりが少しあり している。
14	右蓋舟形 (土師器)	12	11.85	11.15	○杯身: 外縁上半準ナマ。下半ケクリ。内面深ナマ。底筋上にナマ。外縁 に斜削部と二重底となる部分のハリ曲線あり。下縁は外側斜削、底筋はつま みナマ。○蓋底はナマで、三方に通じる。○底成: 良好。	○0.6mm の長石。黒褐色。斜めナ マ。内: 淡青色 (NT1)。	○口縁部。○底の軸身 と比べて、立ち上がりが少 しあり。
15	盖舟形 (土師器)	8.8	7.9	8.65	○杯身: 上半準ナマ。下半ケクリ。上半: ヘラケクリ。内面深ナマ。底筋上 にナマ。蓋底はナマ上にナマ。○蓋身: 外縁上カキメ。下半縁ナマ。外周部 ナマ。○底成: 良好。	○0.6mm の底石。墨色 (7SY6/1)。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○底込みは時計回り。
16	盖舟形杯 (土師器)	12.2	8.9	8	○杯身: 上半上カキメ。下半ケクリ。内面深ナマ。底筋上にナマ。外縁 上にナマに上にカキメ。蓋底はナマ。○底成: 良好。	○0.6mm の底石。黑色 (7SY6/1)。内: 淡青 色 (NT1)。	○ほぼ完全。 ○底込みは時計回り。
17	盖舟形杯 (土師器)	12.4	9	7.8	○口縁: 16.2 製蓋は縁部を切る。○蓋底: 内面墨合ナマ。○底成: 良好。	○同上。○底: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。 ○底込みは時計回り。
18	盖舟形杯 (土師器)	10	-	-	○底筋上にナマ。○口縁: 墨合。底筋部に斜めに凹部を形成。ただし底筋 にはなし。○口縁: 墨合。○底成: 良好。	○縫合。墨合。○外: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。
19	盖舟形杯 (土師器)	11.7	12.3	14.3	○杯身: 上半上カキメ。下半ケクリ。内面深ナマ。底筋上にナマ。底筋部 に斜めナマ。兩端は墨合。○底筋: 内外カキメ。通じる下部墨合。三 方に内方に斜めに上にカキメ。一様底を認められない。○底成: 良好。	○0.6mm の底石多く。内: 淡青 色 (NT1)。	○ほぼ完全。
20	盖舟形杯 (土師器)	13	-	-	○然筋底の杯身と判別。○外縁: 上半準ナマ。底筋部に斜めナマ。○底成: 良 好。	○底筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。 ○底筋墨合 (7SY6/1)。
21	盖舟形杯 (土師器)	14	-	-	○然筋底の杯身と判別。○外縁: 上半準ナマ。下半ケクリ。○内面: 深ナ マ。○底成: 良好。	○底筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。
22	舟 (土師器)	-	-	6.5	○内外蓋: 深ナマ。○底成: 良好底。	○然筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/4P。
23	舟 (土師器)	-	-	-	○内外蓋: 深ナマ。○底成: 良好底。	○然筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○小片。根針跡不可。
24	舟 (土師器)	11	-	-	○口縁: 墨合。底筋: 墨合。	○0.6~1mm の底石。墨合 (7SY6/1)。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○底筋墨合 (7SY6/1)。
25	脚台 (土師器)	-	-	6.8	○脚の脚台と判別。○脚の脚台付と判別。○然中軸に縫合あり。○底成: 良 好。	○然筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。
26	脚 (土師器)	14.3	-	-	○脚筋部を残す。○脚: 墨合。脚筋に斜めに墨合。脚筋に斜めに墨合。○口縁部 内面墨合。○脚底: 墨合。	○0.5~1mm の底石。墨合 (7SY6/1)。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。
27	脚 (土師器)	13.2	15.1	-	○脚筋部内面墨合。脚筋内面下部墨合。○脚底外側: 上半墨合。下半 ケクリ。○脚筋部最大10.1cm。○脚底: 墨合底盤。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/18P。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。
28	脚筋部 (土師器)	6.7	-	8.25	○外縁: 墨合ナマ。底筋部に墨合ナマ。○内面: 墨合ナマ。○脚筋部最大13.0cm。○脚底: 墨合底。	○0.6mm の底石。墨合 (7SY6/1)。内: 淡青色 (NT1)。	○1/2P。 ○墨筋墨合 (7SY6/1)。
29	平板 (土師器)	5.6	-	-	○外縁: 直綫の墨合。脚筋下3寸ほどはヘラケクリ。板は墨合。脚筋最火腰部分 に墨合底盤。○脚筋部最大: 14.4cm。○脚底: 墨合。	○0.5~1mm の底石。墨合 (7SY6/1)。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。
30	脚筋部 (土師器)	31.4	-	-	○外縁: 墨合ナマ。底筋上2.5cm ほどは二段の斜め墨合。行文の下には墨合で ある。○内面: 墨合ナマ。底筋上2.5cm ほどは二段の斜め墨合。○脚筋部: 墨合。	○脚筋墨合及ぶ0.5~1mm の底石。内: 淡 青色 (NT1)。	○1/2P。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。
31	脚筋部 (土師器)	-	-	-	○外縁: 墨合ナマ。口縁: 墨合。然の脚台と判別 (7SY6/1以上)。	○脚筋墨合及び0.5mm の底石。内: 淡青 色 (NT1)。	○1/2P。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。
32	脚筋部 (土師器)	-	-	-	○外縁: 墨合ナマ。底筋部に墨合ナマ。下半は墨合ナマと確認されない。 ○内面: 墨合ナマ。底筋部に墨合ナマ。○脚筋部最大: 45.3cm。○脚底: 墨合底。	○墨合底盤。墨合含有。○外縫墨合 (7SY6/1)。 ○脚筋墨合 (7SY6/1)。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。
33	徒抜取手 (土師器)	-	-	-	○外縁: カキメ (7SY6/3) のちち抜手を取り付け。○内面: 深ナマ。○底成: 良 好底。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○1/2P。
34	徒抜取手 (土師器)	-	-	-	○外縁: カキメ (7SY6/3) のちち抜手を取り付け。墨取り手は墨合。瓶底が認められ る。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○1/2P。
35	徒履 (土師器)	-	-	20	○脚筋墨合 (7SY6/1)。徒履形底。瓶底が墨合底盤。瓶底に墨合が付ける。 脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。
36	徒履 (土師器)	-	-	-	○脚筋墨合 (7SY6/1)。徒履形底。瓶底が墨合底盤。瓶底に墨合が付ける。 脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○脚筋墨合 (7SY6/1)。
37	石踏	-	-	-	○底: 墓石。開底部: 墓石。○脚筋墨合 (7SY6/1)。新底: 墨合 (7SY6/2)。	○花石。○脚筋墨合 (7SY6/1)。	○重量: 80g。

写真 1



寄贈資料 1



寄贈資料 2



高杯



高杯

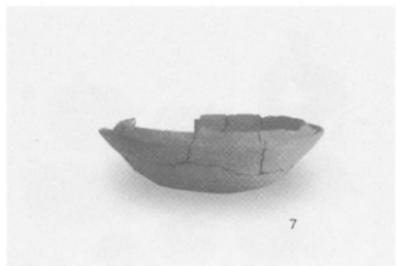


短脚高杯



長脚高杯

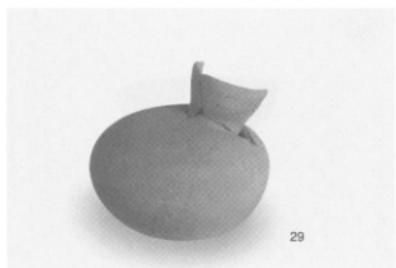
写真 2



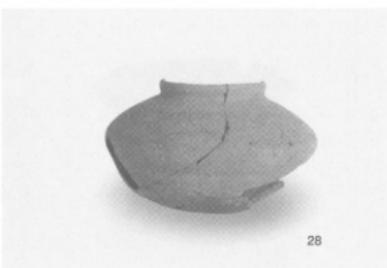
杯身



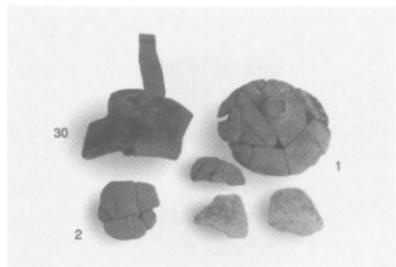
瓶



平瓶



短頸壺



須恵器甕および土器



石錘

政田民俗資料館の収蔵資料1 つる桶

安倉清博

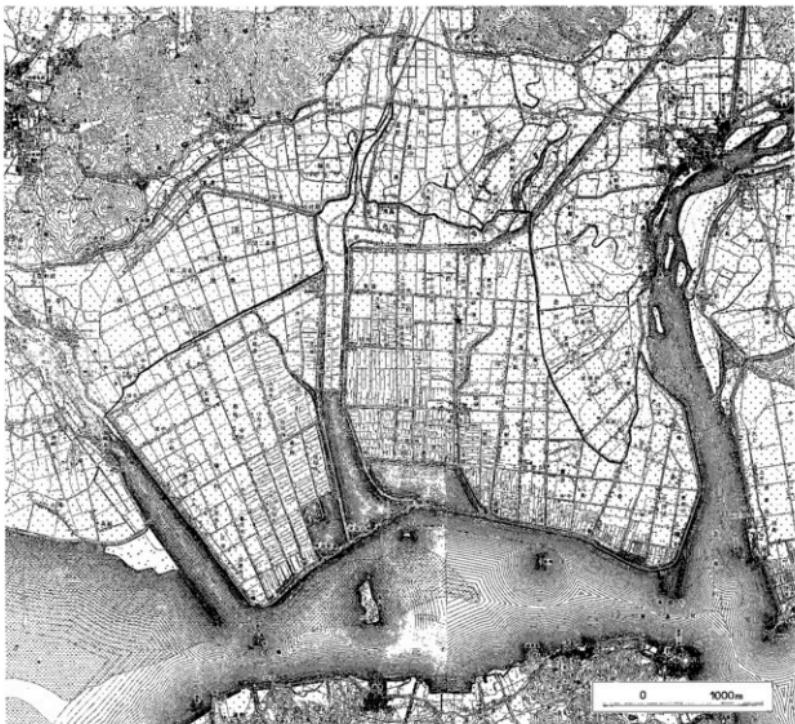
はじめに－民俗資料の概要－

政田民俗資料館は、岡山市南部の児島湾に面した沖新田のほぼ中央部に位置する。

沖新田は、江戸時代前期の元禄5（1692）年に、岡山藩によって干拓された約1900haに及ぶ広大な新田で、現在も水田農耕を中心とした岡山の穀倉地帯として、重要な役割を担っている。

政田民俗資料館は、主にこの沖新田で使用されていた農具や生活用具など1251点（平成13年12月現在）の民俗資料が収蔵されている。この資料館の母体は昭和43（1968）年頃に地元の奥江武氏が、急速な機械化による新田地域の伝統的な生活文化の断絶を危惧し、自発的に地区に呼び掛け自宅に資料を収蔵、それに共感した地区民が、政田小学校の空教室を資料室として整備したことに始まる^①。

その後昭和52年に岡山市教育委員会は同校敷地内にプレハブ平屋建ての政田民俗資料館を設置、地元政田民俗資料保存会の管理となった^②。平成8年には小学校隣に新設された政田コミュニティハウ



第1図 沖新田のようす

太い線で囲んだ部分が沖新田。新田中の縦かい筋が堀田を示す。★印が政田民俗資料館の位置。（25,000分の1地形図を縮小。明治43年調図、大正14年修正、昭和22年行政区画修正）

スに資料館が移転し、平成9年には収蔵する民俗資料一括を、政田民俗資料保存会から岡山市教育委員会に寄付、現在は施設運営を政田コミュニティ協議会民俗資料館部が、また資料管理を岡山市教育委員会が、それぞれ担っている。なお、収蔵資料のうち農具を中心とした235点が、平成14年4月に「干拓地沖新田（政田）民俗資料」として、岡山市指定重要有形民俗文化財に指定された。

ここでは今後数回にわたって、政田民俗資料館の収蔵資料から、新田特有の資料を紹介したい。

1 つる桶の使用について

今回紹介する「つる桶」は、一般に「ふりつるべ（振釣瓶）」、「みずかえおけ（水替桶）」、「なげつるべ（投釣瓶）」などといわれ、桶の両側に2筋の手縄をつけ、それを引き合ったり緩めたりしながら水路や池から水田に水をね上げて汲み上げるものである^⑩。江戸時代の文献にもひろくこれらを使用する様子が描かれ、ごく一般的な農具であったことがうかがえる。

沖新田では、この「つる桶」を水上げに使用するだけではなく、泥上げに使用していたことが特徴である。沖新田は海に面した干拓地であるため、潮止め堤防に近づくにつれて地面も低くなり、やがて堤防付近では海水面下数mになった。しかし技術的な点から広大な新田地を埋立するよりも、低湿地での稲作方法である「ほりた（堀田）」を作るようになった。

堀田は、「堀上げ田」などとも呼ばれ、関東の利根川流域や岐阜県・三重県の輪中地帯がよく知られている。これらはいずれも河川付近の低湿地帯でのものであるが、利根川流域では江戸時代前・中期に、輪中地帯では江戸時代中期から後期にかけて、それぞれ開発されている^⑪。沖新田で堀田が作られるようになった時期については不明であるが、明治初年の地券には「堀敷」として、堀の部分の面積が記されていることなどから、古くからあったものと考えられる。

沖新田の堀田では、田を棚田状にして、棚田部分で稲を育て、棚田の土を上げて低くなった部分を水路として、塩抜溝の役割とした。堀田は、陸地に近いほど田は広く、溝は浅く狭いが、沖にいくほど田は狭くなり、溝は広く深くなる。堤防付近では、棚田と水路の比率は当時の写真で見る限り、およそ10対1以上であった場所も少なくない。これは、農業用水として使用した真水を、やがて海（児島湾）へ排水する必要があり、排水は潮の干潮時に堤防の水門を開くことによってなされた。このため、干潮時に海水面以上の高さになるよう真水を溜める必要があり、それによって水田の棚田面が浸水しない程度の高さを必要とするためである。

さて、この堀田を経営していくための苦労は多く語られているが、この中でも毎年4月から5月頃に行なわれていた「堀田替え」の作業は、最も重労働であったといわれる。堀田替えは、棚田の形状を維持するため、田植え前までに水路の水を全て抜いたのち、水路内にすり落ちた泥を棚田に戻す作



第2図 堀田のようす

百間川右岸、現岡山市光津小字小仕切付近から南を見る。昭和30年頃か。



第3図 堀田での作業

つる桶を使い、堀の中の泥を上げる。昭和30年頃か。

業である。沖新田は児島湾に面するが、この時期は海水の干満の差が大きく、堀の水を替え出すのに都合が良かったようで、作業は堀田の持ち主が共同で行なっていた。手順は堀を堰き止めて、水車で堀の水を替え出し、堀が干上がるとき底に溜まった泥をじょーれん（鋤簾）やつる桶を使い田へ掬い上げていた¹⁵⁾。

この作業で用いられたのが、つる桶である。使用方法は、一般的な水替桶と同様であるが、掬うものが泥であることと、桶を使う人の立位置が、水路の上下となる点が異なる。

2 つる桶の現状

このつる桶は、政田民俗資料館に現在3点が収蔵され、いずれも市重文である。3点ともほぼ同じ形状で、使用による桶の摩滅や、手縄（引き手）の取り換え以外は、大きく異なる点はない。しかし収蔵されて30年以上が経ち、その間乾燥した施設内で保管されてきたため、桶全体に乾燥によるひずみや劣化が見られる。また桶の上下に繋げる手縄を結び締める綱の失われたものや、手縄自体失われたものもある。

今回図示したものは、3点の中で比較的の使用状況をよく留めているものである。資料の登録番号は783-2、分類番号A 5-15で、資料提供者は、升田の古市顕郎氏である。図化にあたっては、現状のまま、すなわち歪みなどもそのまま図化した。法量は、全高40.1cm、側板高約35cm（口縁部の摩滅によって多少前後する）、最大幅32.6cm（桶下の竹幅）、桶部上幅32.1cm、同下幅29.1cm、桶部奥行20.4cm、口縁部奥行19.4cm（中央部）である。

桶は木の薄板を組み合わせ、竹の簾で締めたものである。板は側面に14枚、底面に1枚用いられ、各々組み合わせるよう、加工されたものが組み立てられ、のちに口縁部の面取りが施されている。板は側板が柾目、底板が板目である。また長辺中央付近では両側とも口縁部は次第に薄くなるよう加工されているが、桶内部は他の部材よりも厚めに作られている。これは特に水や泥を跳ね上げる際の内容物の重量に耐えられるよう、工夫されたものと考えられる。桶の両側取っ手部分も厚めの加工がされているが、いずれも底面での厚さはほぼ同じである。

桶の底部は、底板を支えるように竹の台が内周ぐるりに施されている。この竹は竹の張力だけでとめられており、釘や他の細工は施されていない。底板と側板との固定は、側板外面の簾の締め付けと先の竹の台のみでされており、側板に溝を付けたり、底板を釘などで留めるなどの加工はされていない。

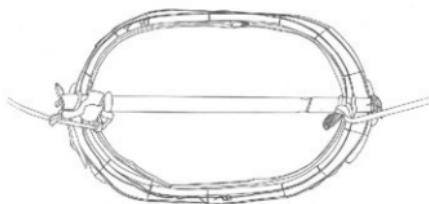
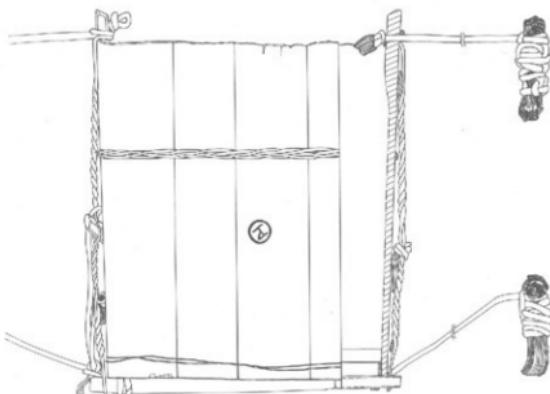
手縄は、桶の左右に、上下からそれぞれ伸びる。この資料本来の材質は木綿であるが、片側の手縄は途中からナイロン製の縄に付け替えられている。しかし使用されたようすもないことなどから、これは収蔵されて以降の付け替えのものと考えられる。桶の上部には、桶の取っ手に穴を開け、そこに縄を通す。下部は、桶に直接取り付けず、底部に竹を当て、それが前後しないよう桶底の両側に抉りを入れて留め、その状態で上部の取っ手と竹を縄で結び、縄の途中を竹でねじり込むことで上下を引っ張り合い、竹を強く固定する。下部の縄はこの竹に結び付けられ、引っ張られる。手縄の長さはそれぞれおよそ170cm前後である。手縄の先端には、藁を巻き固めた握りがあり、それに手縄を幾重にも巻き付けて、最後に縄を巻きつけた縄の下にくぐらせ、留める。握りの長さは11.1cm（上縄）と10.6cm（下縄）で、直径は縄を巻いた状態で約3cm程度である。

桶には外面に1ヶ所と底板内部に2ヶ所、焼印があるが、他に墨書などは見られない。

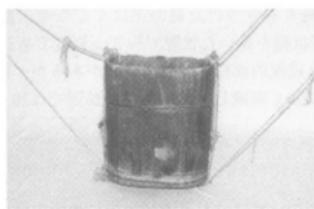
口縁部は使用によって強く摩滅しており、特に長辺では加工の痕跡が見られないほどまでになっている。

おわりに

今回紹介したつる桶については、およそ10年前に地元の歴史グループが作成したビデオ作品に、作業を再現した様子が収録されていた。また収蔵資料にも堀田の存在した当時の作業風景写真が数枚あるが、いずれも作業効率としては甚だ悪いものである。水路内に溜まった泥の中でも、浮いた泥を掬



0 1 2 cm



第4図 つる桶実測図（上、S=1/5）・写真（下）

う程度であり、濁んだ泥を上げたり、崩れた泥を築き直すような作業はできなかつたようである。また、仮に桶いっぱいの泥が入つたとしても、つるの長さや作業姿勢からすると、より非効率なものといえよう。

なお沖新田の堀田は、昭和31年から38年にかけて、児島湾や干拓地内の「四番川」や「百間川」の土砂を浚渫し、それをもって嵩上げ工事がされた際にそのほとんどが埋め立てられ、現在ではほとんどが姿を消した。この嵩上げ工事による沖新田全体の増反は、121.7haであった^①。

今後は、つる桶の普及状況や、実際的な作業効率等についての調査が必要ではあるが、このような道具を使用して農作業を続けてきた干拓地の人々の生活や生き様についても、調査を続けていく必要がある。

注

- (1) 奥江菅枝氏の教示。
- (2) 政田民俗資料保存会編『政田民俗資料館竣工記念誌』政田民俗資料保存会、1977年。
- (3) 日本民具学会編『日本民具辞典』ぎょうせい、1997年。
- (4) 堀充宏「中川流域の嵩上げ田の農耕」「民具マンスリー」第32巻10号、神奈川大学日本常民文化研究所、2000年。
岐阜県博物館編『輪中と治水』岐阜県博物館友の会、1990年。
岐阜県小学校社会科研究会編『新訂版 低地のくらし輪中と治水』岐阜県小学校社会科研究会、1998年。
三重県長島町「長島町輪中の郷」見学資料。
- (5) 津田ふるさと研究会編『ふるさと津田300年のあゆみ』岡山市立上南公民館、1991年。
- (6) 沖新田史編集委員会編『沖新田の歴史と物語』沖新田史編集委員会、1968年。

政田民俗資料館ご案内

所在地 704-8165 岡山市政津1032-3 (政田コミュニティハウス内)

電話 086-948-2948

休館日 原則として金・日曜日・祝日および12月29日から1月3日

公開時間 午前9時30分から午後4時30分

*見学ご希望の方は事前に電話連絡をください。

ホームページ

<http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/bunkazai/masadaminnzoku/masada.htm>

岡山市埋蔵文化財センターご利用案内

所 在 地 〒703-8284 岡山市網浜834-1

(TEL086-270-5066 FAX086-270-5067)

公開時間 午前9時から午後4時30分まで

休 館 日 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末年始（12月29日～1月3日）

入 館 料 無料

交通案内 両備バスまたは岡電バス 「網浜中」下車、徒歩5分

岡山駅・天満屋バスターミナルから

- ・新岡山港行（四軒屋経由・新道経由）
- ・岡山ふれあいセンター行
- ・桑野営業所行（三蟠郵便局経由）
- ・湊倉益行

所要時間 岡山駅から約15分

URL <http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/>



岡山市埋蔵文化財センター年報2

2001（平成13）年度

発行年 2003年3月31日
発 行 岡山市教育委員会
岡山市大供一丁目1番1号
編 集 岡山市埋蔵文化財センター
印 刷 昭和印刷株式会社